

○5節 フローリング張り														
19.5.2 材料	複合フローリングのホルムアルデヒド放散量:○F☆☆☆☆ ○ 接着剤のホルムアルデヒド放散量:○F☆☆☆☆ .					19.7.3 工法								
	施工箇所	品名	樹種	工法	厚さ及び大きさ	仕上げ	現場塗装	備考の有無	備考(程度)					
	○フローリングボード	○なら	○根太張り ○直張り ○接着	表19.5.1 表19.5.3	OUC OOS ○ワックス									
	○フローリングブロック	○なら ○	○モルタル	表19.5.6	OUC OOS ○ワックス									
	○モザイクパーティカル	○	○接着		OUC OOS ○ワックス									
	○複合1種フローリング ○複合2種フローリング ○複合3種フローリング	○なら	○根太張りA種 ○根太張りB種 ○根太張りC種 ○直張りA種 ○直張りB種 ○直張りC種 ○接着	表19.5.2 表19.5.4 表19.5.5	OUC OOS ○ワックス									
	接着工法におけるフローリング裏面の緩衝材:○合成樹脂発泡シート ○ 根太張り工法の複合フローリングC種における防湿処理の有無:○無 ○有													
	○6節 置敷き													
	19.6.2 材料					(表19.6.1)								
	施工箇所	種別		備考(程度)										
	○A種(WR-1)													
	○B種(WR-2)													
	○C種(PS-C20)													
	○D種(KT-I)													
	○D種(KT-II)													
	○D種(KT-III)													
	○D種(KT-K)													
	○D種(KT-N)													
●7節 セッコウボードその他ボード張り														
19.7.2 材料	(1)セッコウボード、その他ボード類					19.7.3 工法								
	材種	厚さ(mm)	性能	工法	備考(程度)									
	一般石膏ボード(GB-R)	12.5	不燃	ジョイントレス	吉野石膏 JTB									
	岩綿吸音板(捨張り有)	12	不燃	突き付け	大建工業 メディカルトーン									
	化粧ケルカル板	6	不燃	目地シール	A&Aマテリアル ステンド500									
	ケイ酸カルシウム板	6	不燃	目透かし	A&Aマテリアル ハイラック									
	パーティクルボード及びMDFのホルムアルデヒド放散量:●F☆☆☆☆ .													
	(3)合板					19.7.4 工法								
	合板のホルムアルデヒド放散量:○F☆☆☆☆ ○													
	防虫処理:○無 ○有()													
	難燃処理:○無 ○有()													
	防煙処理:○無 ○有()													
	(3)(ア)普通合板					19.7.5 工法								
	施工箇所	表面の種類	板面の品質		厚さ	接着程度	仕上の種類	備考(程度)						
	広葉樹	針葉樹(A-A~D-D)			○()	○1類 ○2類	生地のまま 又は透明塗料	○()						
	ラワン	程度	○1等 ○2等			○()	○1類 ○2類	生地のまま 又は透明塗料						
	シナ	程度	○1等 ○2等			○()	○1類 ○2類	不透明塗料 塗り						
	防虫処理の有無:○ 有(方法:) ○ 無													
	(3)(イ)天然木化粧合板					19.7.6 工法								
	施工箇所	化粧単板		接着の程度										
	樹種	厚さ												
	○3.2	○4.2	○6.0	○()	○1類 ○2類									
	○3.2	○4.2	○6.0	○()	○1類 ○2類									
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類													
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類					19.7.7 工法								
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類													
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類					19.7.8 工法								
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類													
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類					19.7.9 工法								
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類													
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類					19.7.10 工法								
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類													
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類					19.7.11 工法								
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類													
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類					19.7.12 工法								
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類													
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類					19.7.13 工法								
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類													
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類					19.7.14 工法								
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類													
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類					19.7.15 工法								
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類													
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類					19.7.16 工法								
	○3.2 ○4.2 ○6.0 ○() ○1類 ○2類													

共通事項(特記仕様書及び図面に記載ない場合は下記を適用する)

(外壁・外部建具)
 01. RC外壁の伸縮目地は300mm内外ピッチ及び柱間際と打継部分に設ける。
 02. RC外壁の水平打継箇所で外部面に突起物(庇、バルコニー、梁型など)がある場合の打継は、スラブ上面より100mm上位の位置と外し配付きとする。
 03. 外壁の止水シールは異種材取合い及び金属相互取合い部では二重シールとする。
 04. ~~RC外壁最下部の外壁受用RC立柱は当該床仕上げ面から300mm以上として取合い部には金属属性(SUSまたはA3)の水切り設ける。~~
 05. 機械・電気設備室の屋外に設けた開口部の下端には300mm以上の立上りを設けることを原則とし、立上りが支障となる場合は代替措置として、目的に足る容量のグレーティング蓋付き排水溝を開口部の屋外側面に設ける。
 06. 屋外に面する雨廻しの扉上部には外壁面からの出が150mm以上の既製金属性水切り庇を設け、床立上りのない出入口扉などの屋外側の床には、原則として雨水の流入を防ぐためのW150mm幅グレーティング蓋付きの排水溝を設置する。
 07. 外壁に取付くガラリは水返し付きとし、厨房など油脂を扱う施設に取付くものを除き、随時外して清掃可能なSUS防鳥網を設置する。
 (防水・排水)
 08. 金属製笠木を被せる軸側の天端はウレタンゴム系塗膜防水など二次的な防水措置を考慮する。
 09. 防水の床仕上げ面からの立上り高さが300mm以上H≤500mmとなるように水勾配を設定する。
 10. 機械基礎も含む防水立上り押えアゴの天端には水勾配をとり、天端からアゴ下面に設けた水切り線までの範囲にはウレタンゴム系塗膜防水t2を施す。
 11. 保護・仕上げに用いる現場打ちコンクリートに挿入する溶接金網は防錆処理をしたものとする。
 12. RDは受け持つ排水区画当り2ヶ所以上設置する。
 13. RCスラブに設置するRDはスラブ打込みとし、RDに接続するDP堅管の管面から水平方向にタテコ各200mmの正方形の範囲内において厚さ50mm以上のスラブ下補強増打ちを行った上で当該部位に断熱を施す。
 14. 日常的な目視点検が困難な屋上や屋根にある側溝や横樋のうち、想定水深が200mmを超えるような大型のものは10m内外のピッチ、かつ受け持つ排水区画当り1ヶ所以上のオーバーフロー管を設ける。
 15. オーバーフロー管はSUS製φ50として横などの上限水位の高さに設け、管の先端は外壁面から20mm以上突出させること。
 16. 幅が400mmを超える横樋は、メンテナンスのために人が柵内を歩行できる仕様とする。
 17. 電気系の諸室やシャフトの天井スラブに防水を施す必要がある場合はアスファルト防水を採用する。
 (断熱)
 18. 常時外気に接する金属材料で結露の発生が想定される部位(笠木、外装パネル、サッシ、RD廻りなど)には裏面に断熱材吹付などの結露防止策を施す。
 19. 建物外皮の断熱は全周に施し、外壁部における施工の対象範囲は外壁面から室内側へ1000mm以内にある全ての壁内面、梁型、柱型、床スラブ下面とする。
 20. ピロティやオーバーハングなど屋外吹き放し部、風除室、随時外気に開放される駐車場や倉庫などの直上にある居室や共用部などの床面には断熱を施す。
 21. 外壁、床などの断熱は硬質ウレタンフォーム(ノンフロン商品)t25吹付とする。
 (金属表面処理)
 22. 常時外気に接する全ての鉄部には溶融亜鉛メッキ処理を施し、メッキ処理過程で生じた部材の歪み・反りなどを確実に修正する。
 23. 亜鉛メッキ面を損傷(ボルトかしめ、打ち傷など)した場合は、ジンクリッヂペイント塗布など当該部位へのタッチャップによるメッキ層の修復処理を施す。
 24. SUSはSUS304として見掛けの部の仕上は特記仕様書による表層の上にクリア塗装とする。
 25. 室内の見掛けの鉄部は合成樹脂調合ペイント(SOP)塗りとする。
 26. 室内側の窓台は鈍板t2.3加工品と合成樹脂調合ペイント(SOP)塗りとする。
 (仕上・下地)
 27. RC化粧打放し仕上(見掛け部に限る)は樹脂合板型枠採用による屋外20mm、屋内10mmの増打ちと、型枠割付・セバ穴位置・色調などにつき施工図・試験打放しにより本施工前に監理者の承認を得る。
 28. RC仕上げ床は屋内向外も10mm増打ちと、金ごて直し上げとする。
 29. 床モルタル塗りは金ごて仕上とする。
 30. ボード単板張り天井の場合は、天井下面に露呈するボード取付け用の皿ビスの頭を天井と同色に着色する。
 31. 軒天井及び温氣や塩素などを多量に発生させる室(浴室、シャワールーム、プール室など)の天井下地軽量鉄骨には高耐食性メッキ鋼板製のものを採用する。
 (建具・ガラス)
 32. 建具閉鎖用のオペレータはワイヤー隔壁型とする。
 33. 引戸形式の自動扉には引き込まれ防止ガード棒を設置する。
 34. 全ての強化ガラス及び人の手の届く範囲(概ねH<2000mm)にあるフロートガラスには飛散防止フィルムを張る。
 35. 床から立ち上がる大型の透明ガラス窓やガラススクリーン、扉のガラス面には衝突防止サインを施す。(内装)
 36. 岩綿吸音板(DR)は石膏ボード(GB)t9.5(不燃)捨張り下地、突き付け目地とする。
 37. GB緑目処理(壁、天井)はテバーパー目地、ジョイントテープ使用のジョイントレス工法とし、ケイカル板(FK)もこれに準ずる。
 38. 騒音や振動を発生させる設備機械の置場・機械室の直下階にある居室の天井裏には吸音用としてGWマットt50を敷き込み、天井の吊り戻しは防振タイプを採用する。
 39. 湿気や塩素などが充満する室の天井裏には強制換気式を採用するとともに、天井は湿気や塩素の天井裏への回り込みを防ぎやすい材料(アル、樹脂パネルなど)を選定し、設備・照明開口や点検口など天井面の切欠きを極力避ける。また天井外周と壁の取合ひ及び天井材接合部、全ての天井開口部周辺はシールで塞ぐ。
 40. ウェットゾーン(浴室など多湿空間)と隣接する室は天井内で含め、区画壁の接合部・軸体との取合い部などの隙間を確実にシールで塞ぎ、湿気などの浸入を防止する。
 41. 乾式ボード壁は仕上ボードと下地捨張りボードの総目はすらし、緑目処理部の寒冷紗はガラスクロス(GC)下地同等の不燃材とする。
 42. 乾式ボード壁のコーナー(出隅入隅)は、コーナー補強材とパテにて下地処理を施す。
 43. 壁面へのコンセント、スイッチ、設備プレート、消火栓ボックス、巾木などの埋込設置に伴う断面欠損により壁自体の耐火、遮音、防水などの性能を損なう場合は、裏面からの補修処理などにより本来の必要性能を復活させる。
 44. 設備・電気機械室及びシャフト内の耐火被覆は乾式を採用し、H<2100mmの範囲の耐火被覆面と断熱材施工面は乾式ボード壁で保護する。
 45. RC壁と乾式ボード壁が取合う部分には見切目地を設ける。
 46. Vクロスは防火・防火認定品とし、接着剤には防火剤処理を施す。
 47. 合成樹脂エマルジョンペイント(EP, EP-G, EP-T)は防汚・防火ビズ様とする。
 48. OAドア、スポーツドアなど二重床の下床は防塵塗装とする。
 49. 設備・電気機械室及びシャフト内の床は薄膜型ウレタン樹脂系の防塵塗装とする。
 50. 音を発生させる機器類を設置した機械室内部のH>2100mmの柱・梁型を含む全壁面及び天井全面は、グラスウールボードt50・32Kg/m3+グラスクロス・インサルビン止め(GWB-GC)を施す。
 51. 使用する内装材、接着剤、家具などにおける規制対象品目は全てF☆☆☆☆とする。
 (地下)
 52. ピット内天井スラブは押出法ポリスチレンフォーム(XPS)t25打込みとする。
 53. 地階及び二重ビット外周のRC壁の内側には浸透性塗布防水を施す。
 54. 地下外壁やピット底盤部などのRC打継部分には、止水板を打込む。
 55. 土に直接接するRCスラブ下には押出法ポリスチレンフォーム(XPS)t25及びポリエチレンフィルムt0.15を敷き込む。

(雑)
 56. 丸環は屋根などの防水を貫通しない位置にかんざし筋を用いて設置し、設置可能な部位における取付けピッチの目安は600mm内外とする。また持出しブラケット部分のみの設置としリングは設置しない。
 57. 天井点検口は450mm□AL枠既製品(額縁タイプ:焼付塗装品)とし、面材は設置される天井仕上と同等材とする。
 58. 天井点検口、設備機器、照明器具など天井の吊物で脱落する恐れのあるものは、脱落防止用のSUSワイヤーを設置する。
 59. 電動・手動式のブラインドや窓開閉オペレータは、屋外やウェットゾーン内では鋼製部材の腐食を避けるため駆動部や可動部などを露出させた状態での使用は避ける。
 60. OAプロアのパネルは、実装数のうちの50%以上が記録用開口(2ヶ所/パネル)付きのものとする。また配線用開口に設置するケーブル通線口(15mmφ程度)有り無しの全物をそれぞれ配線用開口の数量相当分納品する。
 61. 一般部の異種床材の見切りはSUS自地棒t5×10mmL仕上げとする。
 62. 防火扉部の異種床材の見切りはSUS製t2×型幅40mm×高さ20mmのアンカー付きとし、型内部にはモルタルを充填する。
 63. 床から天端までの設置高さが300mmを超えるタラップには背カゴ及び頂部を曲げ加工した掴み手摺を設ける。
 64. 二重ビット点検用マンホールは全て防水・防臭タイプとし、化粧マンホールはSUS FB目地タイプ枠仕様とする。
 65. 車両が横断する側溝に設けるグレーティングや化粧蓋は耐荷重型(T-20)相当とする。
 66. 下記に指定する材料は本工事で使用した総数の10%を将来補修用として納品する。
 (EXP.J)
 67. 一般社団法人日本免震構造協会(JSS)「免震エキスパンションジョイントガイドライン」の性能指標A種に準じ、振動台実験により損傷しないことを確認したA種相当製品とする。
 68. 耐火帯は日本エキスパンションジョイント工業会の適合証を取得した耐火帯とする。
 69. 樹脂製Exp.Jは2.4mm以上の厚みを有するものとする。
 70. 樹脂製Exp.Jは15年以上の施工実績のある製品とする。
 71. 外壁Exp.Jは動風圧試験装置による加圧試験で5400Paにおいて脱落がないことを確認した製品とする。
 72. 屋根Exp.Jは動風圧試験装置による加圧試験で4000Paにおいて脱落がないことを確認した製品とする。
 73. 耐火帯、可動性能を確認した製品とする。
 (官公署その他への届出手続き等)
 74. 工事の各段階に必要な消防や官公署その他への各種申請又は届出の種別・手続・期間等はあらかじめ調査し、一覧表を作成して監理者に提出する。
 75. 施工に直接必要な消防や官公署その他への手續は、遅延なく行うほか、発注者等が行う手続に協力、これを代行し、その経緯を適宜監理者に報告する。
 76. 工事の各段階に必要な消防や官公署その他関連機関の立会検査や審査のうち、発注者が申請者となるもの(以下、法定検査といふ)について、その種別・手続・時期・実施内容等をあらかじめ調査し、一覧表を作成して監理者に提出する。その際に必要となる図面や書類等については作成のうえ、事前に監理者に提出する。
 77. 消防や関係官公署その他関連機関の立会検査を必要とするものは、監理者と打合せのうえ検査を受け、その結果を監理者に報告する。
 78. 前号の検査の結果、不合格の箇所がある場合は、すみやかに修補し、必要な手続を行い、その結果を監理者に報告する。
 79. 前号の修補に直接要する費用は受注者の負担とする。
 80. 工事に必要な諸手続き(各種システム評定などを含む)及び費用(交通費、実験及び資料作成費用一式を含む)は、受注者負担とする。
 81. 「省エネ基準監理報告書」を作成するために必要な下記資料を提出する。
 1)外皮(外壁、窓、断熱材等)に関する、施工計画書、施工記録書、製品ラベル等

2)空調・換気設備、照明設備、給湯設備、太陽光発電設備、コーディネーションシステム等に関する、納入記録書、自主検査記録等。
 82. 受注者の起因により省エネ法の届出に変更が生じた場合は、届出書類の作成は受注者にて行う。
 (その他)
 83. 病院棟2階 臨床心理室及び小会議室3の窓(W6000×H1670程度)に遮熱フィルム(3M Nano80S同等)を設置する。遮熱フィルム設置に当たり、事前に熱割れ計算を行い、監理者に提出すること。

記号凡例

防火材料	図面記号
不燃材	番号
せっこうボード t 12.5, 15	NM-8619
化粧せっこうボード t 12.5, 15	NM-0127
WL、(BWL)	TP、(OP)
シージングせっこうボード t 12.5, 15	NM-0879
強化せっこうボード t 12.5, 15, 21	NM-9639
ガラス織維不織布入り石膏ボード	NM-9345
超硬質高強度せっこうボード t 9.5, 12.5, 15	NM-9645
けい酸カルシウム板(無石綿) t 5以上	NM-8579
抗菌メラン不燃化粧板 t 3	NM-1699
岩綿吸音板(ロックウール化粧吸音板)	NM-8599
岩綿吸音板(ロックウール化粧吸音板)	NM-8601
グラスウール保温板	NM-8605
グラスウール化粧保温板	NM-8610
紙壁紙 1級	NM-9784
織物壁紙 1-3級	NM-9847
無機質壁紙 1級(下地: 法定不燃材料(金属、ガラス、セメント等))	NM-9848
セッコウボード t 10以上	NM-8585
スチールパーティション	NM-1763
不燃木材(桧)	NM-1701
せっこうボード t 9.5	NM-9828
準不燃材	番号
化粧せっこうボード t 9.5	QM-9824
シージングせっこうボード t 9.5	QM-9826
紙壁紙 1級	QM-9247
織物壁紙 1-3級	QM-9169
無機質壁紙 1級(下地: 法定不燃材料(金属、ガラス、セメント等))	QM-9545
セッコウボードを除く直張り	
特定防火設備等	番号
耐熱ガラス入り特定防火設備(单窓、連窓)	EA-0101
耐熱ガラス入り特定防火設備(框扉)	EA-0040
耐熱ガラス入り特定防火設備(袖窓框扉)	EA-0072
昇降路遮煙性能付特定防火設備	CAS-0214
PS	設備配管スペース
EPS	電気配管・配線スペース
OA	給気
EA	排気
CM	煙突
SS	シャッター
SF	防煙垂壁
EXP. J	エキスパンションジョイント
SP	スチールパーティション
SLW	スライディングウォール
FIX	嵌設

材料・構造	
SUS	ステンレススチール
HL	ステンレス・ヘアライン仕上
ML	ステンレス・鏡面仕上
VB	ステンレス・バイプレーション(無方向ヘアライン)仕上
GL	設計地盤面レベル
平均GL	平均地盤面レベル
2B	ステンレス・2B仕上
DULL	ステンレス・ダル仕上
ST	鉄、鋼
FL	床仕上面レベル
SL	床スラブ面レベル
U-D	上がる・下りる
V	吹抜け
PH	塔屋
CH	天井高さ
W-D·H	幅・奥行き・高さ
L	長さ
t	厚さ
Ø	直径
R(r)	半径
CL	センターライン
@	間隔
EV	エレベータ
ESC	エスカレータ
HC	多機能ドア
UB	ユニットバス
US	ユニットシャワー
SW	シャワー
SK	掃除流し
RD	ルーフドレン又はフロアドレイン
DP·RDP	ドレインパイプ・中継ドレイン
OF	オーバーフロー管
MH	マシンハッチ
MR	機械室
DS	ダクトスペース
PS	設備配管スペース
EPS	電気配管・配線スペース
OA	給気
EA	排気
CM</td	

共通設計概要書

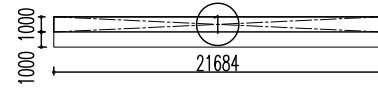
・選択記入事項は●のついたものを適用し、○印は適用しない。

		設計条件(建築物等)	
許容面積	建築面積(率) m ² (%) 容積(率) m ³ (%)		
許容高さ	最低限度 : m 最高限度 : m		
耐震性能		耐震構造システム ○耐震構造(付加制振) ○制振構造 ○免震構造	
官庁基準の採否		高耐震設計 ○採用 ○非採用	
構造体		○I類 ○II類 ○III類	
建築非構造部材		○A類 ○B類	
建築設備		○甲類 ○乙類	
重要度係数(I)		○1.5 ○1.3 ○1.25 ○1.0	
地域係数(Z)		○1.2 ○1.0 ○0.9 ○0.8 ○0.7	
設計用層間変形角(構造体)		中地震時 : O1/200 O1/ 大地震時 : O1/100 O1/	
エキスパンションジョイントの必要クリアランス		地上部 : ○高さの1/50 ○高さの1/ 地下部 : ○30mm ○50mm ○ mm 免震層(水平) : mm 免震層(垂直) : mm	
必要クリアランスは設計クリアランスの最小値を示し、多層に及ぶ場合は確認のこと。設計クリアランスは施工誤差等を考慮した上で得られる竣工時に確保された寸法を示す。			
室内遮音目標値		室名() NC値()	
特殊な室の仕様			
建築物等の概要(事業全体)			
主要用途		建築基準法 用途区分記号 消防法 項()	
建築面積		申請部分 m ² 申請以外部分 m ² 合計 m ² 備考	
延べ面積		申請部分 % 申請以外部分 合計 備考	
敷地面積		申請部分 棟 申請以外部分 棟 備考	
建築物の数		申請部分 最高の高さ m 階数 地下階 地上階 塔屋 階 構造	
建築物の高さ等		申請部分 合計 台数(台) 建築基準法第56条第7項による特例の適用の有無:○有 ○無 適用がある場合の特例の区分: ○道路高さ制限不適用 ○隣地高さ制限不適用 ○北側高さ制限不適用	
駐車場附置義務		○有()台 ●無	
駐輪場附置義務		○有()台 ●無	
公共下水道		●雨水／汚水分流 ○雨水／汚水合流	
電柱支線移設		○有(位置出し、長さ等) ●無	
道路切り下げ		○有(位置出し、長さ等) ●無	
環境			
日影規制		○有 ●無 5m: 時間 10m: 時間 受影面レベル: GL+ m 周辺規制値 5m: 時間 10m: 時間 受影面レベル: GL+ m	
騒音規制		●有 ○無 敷地境界線上 (50)デシベル以下(朝 6時~8時) (60)デシベル以下(昼間 8時~ 19時) (50)デシベル以下(夕 19時~ 22時) (45)デシベル以下(夜間 22時~ 6時)	
雨水流出抑制		●要 ○不要 ※自主的な流出抑制、法的抑制は無し。 抑制方法 ○雨水貯留(必要雨水貯留量: 1250.36m ³) ○雨水浸透	
排水規制		●有 ○無	
設計降雨量		とい設計用 : 150 mm/時間 敷地排水設計用 : 67.4mm/時間	
風荷重		瞬間降雨条件 : 22.1mm/10分(適用範囲:各部屋根) 基準風速(Vo) : 36 m/sec 地表面粗度区分: ○I ○II ○III ○IV 再現期間 : ○50年 ○100年 ○ 年	
積雪荷重		●多雪区域外 ○多雪区域 設計積雪量 : 30cm 単位重量 : ○20N/m ² /cm ○30N/m ² /cm	
地下水位		TP+ 8.33~9.88m (GL-6.10~7.65m)	
浸水対策		○要 ●不要 想定冠水レベル : TP+ m 防水堤水レベル : TP+ m (防水板高さ : ○1階床高さ ○)	
寒冷地対策		○要 ●不要 凍結深度 : 地表仕上げ面 - m その他の凍害等対策と範囲は設計図による	
塩害対策		○耐塩仕様 ○重耐塩仕様	
その他		開発許可申請 ○要 ●不要 土壤汚染対策法 ○適用 ○不適用 (汚染されていないことを調査済み、形質変更届(法4条申請)を発注者より提出)	

各建築物等の諸元	注: [] 工事対象となる新築建物 各棟の番号は配置図を参照のこと。							
	本棟		②手術室棟		⑤病院棟		⑯救急風除室	
建築物等の名称	②手術室棟	○	⑤病院棟	○	⑯救急風除室	○	⑥廃棄物保管庫	○
用途区分記号	08260(病院)		08260(病院)		08260(病院)		08990(その他)	
構造							鉄骨造	
耐火区分							耐火建築物	
階数	地階を除く階数						1	
	地階の階数						0	
高さ	最高の高さ						4.11m	
	最高の軒の高さ						3.54m	
建築設備	○甲類	○乙類					-	
重要度係数(I)	○1.5	○1.3	○1.25	○1.0			主な天井高	
	○1.2	○1.0	○0.9	○0.8	○0.7		2.30m	
地盤係数(Z)								
設計用層間変形角(構造体)	中地震時 : O1/200 O1/						外部	
	大地震時 : O1/100 O1/						主な屋根	ウレタン塗膜防水
エキスパンションジョイントの必要クリアランス	地上部 : ○高さの1/50 ○高さの1/						主な外装	AAC(アセチルセルロース)強撃性吹付タイル
	地下部 : ○30mm ○50mm ○ mm						主な軒ウラ	なし
免震層(水平)	: mm							
免震層(垂直)	: mm							
必要クリアランスは設計クリアランスの最小値を示し、多層に及ぶ場合は確認のこと。設計クリアランスは施工誤差等を考慮した上で得られる竣工時に確保された寸法を示す。								
室内遮音目標値								
特殊な室の仕様								
建築物等の概要(事業全体)								
主要用途	建築基準法 用途区分記号 消防法 項()							
建築面積	申請部分 m ² 申請以外部分 m ² 合計 m ² 備考							
延べ面積	申請部分 % 申請以外部分 合計 備考							
敷地面積	申請部分 棟 申請以外部分 棟 備考							
建築物の数	申請部分 最高の高さ m 階数 地下階 地上階 塔屋 階 構造							
建築物の高さ等	申請部分 合計 台数(台) 建築基準法第56条第7項による特例の適用の有無:○有 ○無 適用がある場合の特例の区分: ○道路高さ制限不適用 ○隣地高さ制限不適用 ○北側高さ制限不適用							
駐車施設	○住宅用途設置台数 普通車用 台 (内 機械式 台) 小型車用 台 (内 機械式 台) 障害者用 台 (内 機械式 台) 合計 台 (内 機械式 台) △附置義務台数(台)							
	○非住宅用途設置台数 普通車用 台 (内 機械式 台) 小型車用 台 (内 機械式 台) 障害者用 台 (内 機械式 台) 合計 台 (内 機械式 台) △附置義務台数(台)							
駐輪施設	○住宅用途設置台数 平置式 台 (内 機械式 台) 傾斜ラック式 台 (内 機械式 台) 2段式 台 (内 機械式 台) 合計 台 (内 機械式 台) △附置義務台数(台)							
	○非住宅用途設置台数 平置式 台 (内 機械式 台) 傾斜ラック式 台 (内 機械式 台) 2段式 台 (内 機械式 台) 合計 台 (内 機械式 台) △附置義務台数(台)							
許可認定等	○避難安全検証法 ○耐火性能検証法 ○なし 特定天井 ○有(設計図による) ○無 耐震性能に配慮する居室 ○有(設計図による) ○無							
検証法運用の有無								
特定天井等								
耐震性能								
GASBEEランク	OS ○ A ○ OB+ ○なし							
消防用水	耐火建築物: 1階 2階 合計							
(消防法施行令第二十七条)	準耐火建築物: 1階 2階 合計							
BE値	その他の建築物: 1階 2階 合計							

建築物等の名称	⑫駐輪場2(職員用)	⑬歩廊	⑭キャビン	⑮救急用歩廊	⑯リハビリ棟※	⑦病棟※	⑧研修医室※	⑨医療用自家発電室
用途区分記号	08500(自転車駐輪場)	08990(その他)	08990(その他)	08260(病院)	08260(病院)	08260(病院)	08260(病院)	08260(病院)
構造				鉄骨造				
耐火区分				耐火建築物				
階数	地階を除く階数			1				
	地階の階数			0				
高さ	最高の高さ			4.55m				
	最高の軒の高さ			4.55m				

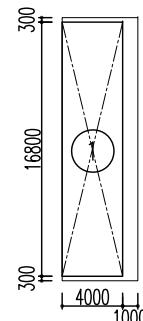
⑫駐輪場2 面積求積図



■『⑫駐輪場2』建築面積			
場所	記号	面積計算式 (m) ²	小計 (m) ²
1	1	1.000×21.684	21.684
階		小計面積 (m ²)	21.684

■『⑫駐輪場2』1F面積			
場所	記号	面積計算式 (m) ²	小計 (m) ²
1	1	2.000×21.684	43.368
階		小計面積 (m ²)	43.368

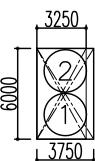
⑯キャノピー 面積求積図



■『⑯キャノピー』建築面積			
場所	記号	面積計算式 (m) ²	小計 (m) ²
1	1	16.800×4.000	67.200
階		小計面積 (m ²)	67.200

■『⑯キャノピー』1F面積			
場所	記号	面積計算式 (m) ²	小計 (m) ²
1	-	0.000	0.000
階		小計面積 (m ²)	0.000

⑯救急風除室 面積求積図



■『⑯救急風除室』建築面積			
場所	記号	面積計算式 (m) ²	小計 (m) ²
1	1	6.000×3.250=19.500	19.500
階		小計面積 (m ²)	19.500

■『⑯救急風除室』1F面積			
場所	記号	面積計算式 (m) ²	小計 (m) ²
1	2	6.000×3.750=22.500	22.500
階		小計面積 (m ²)	22.500

打正
・
・
・
・
・

KUME
SEKKEI 株式会社 久米設計

日付

2023.01.20

PA 井上裕嗣

担当 川上賢史、栗原崇

横口拓昌、吉川瑞樹

一級建築士 登録番号 第268016号 井上裕嗣

一級建築士 登録番号 第266585号 高橋 剛

監修名 R7霧島市立医師会医療センター外構1期整備工事(建築)

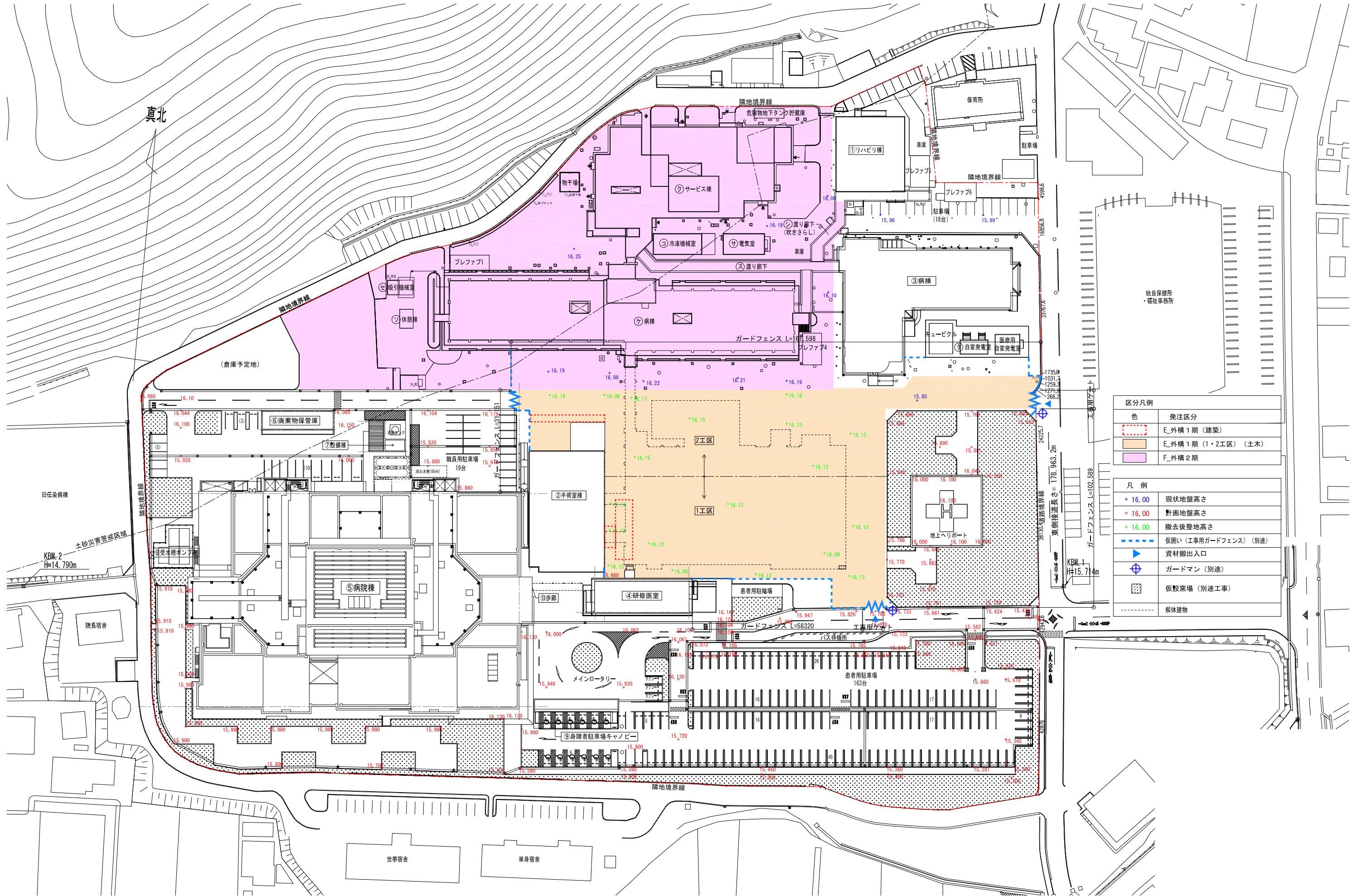
図面名 求積図

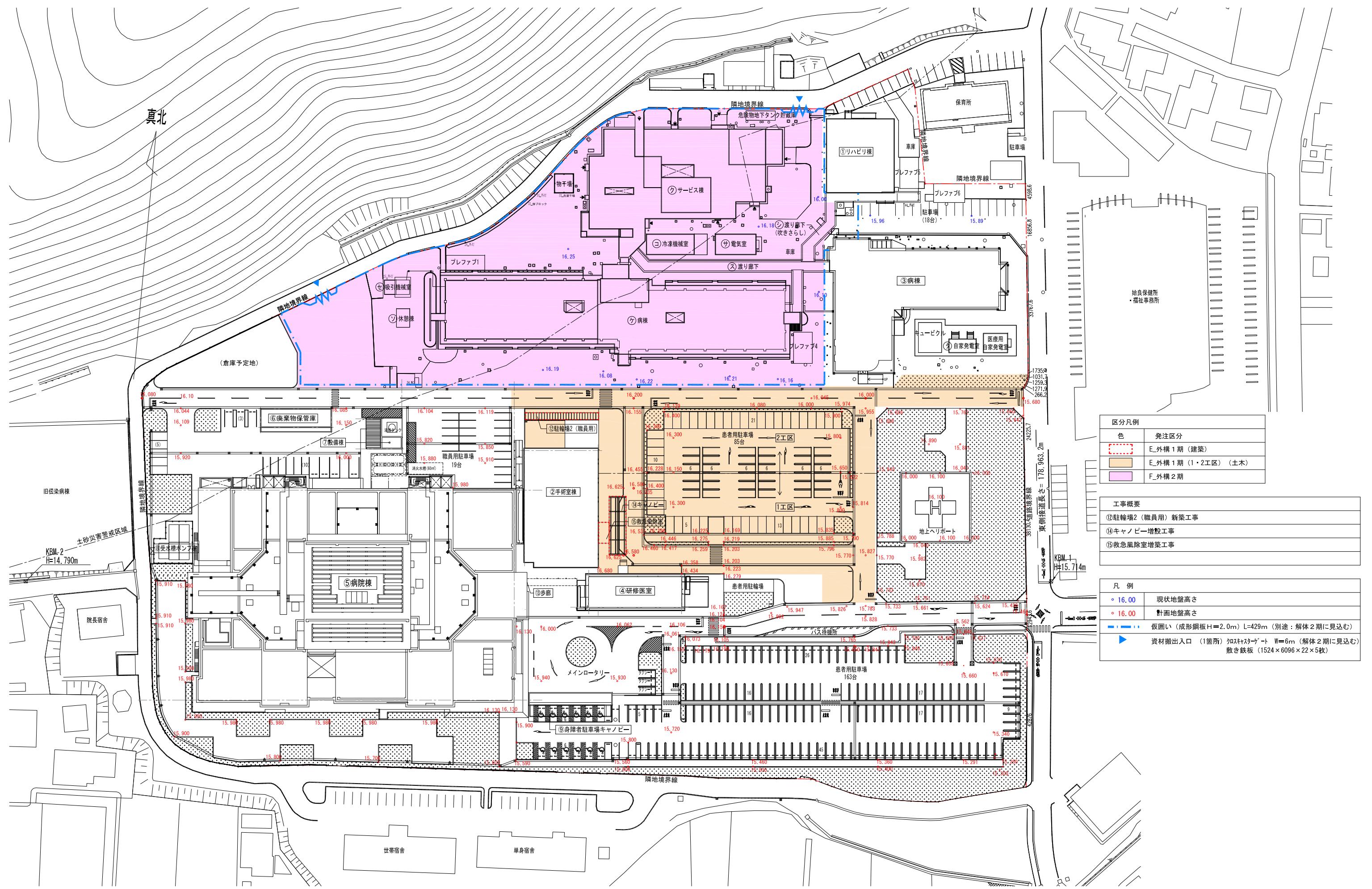
設計番号 0190403

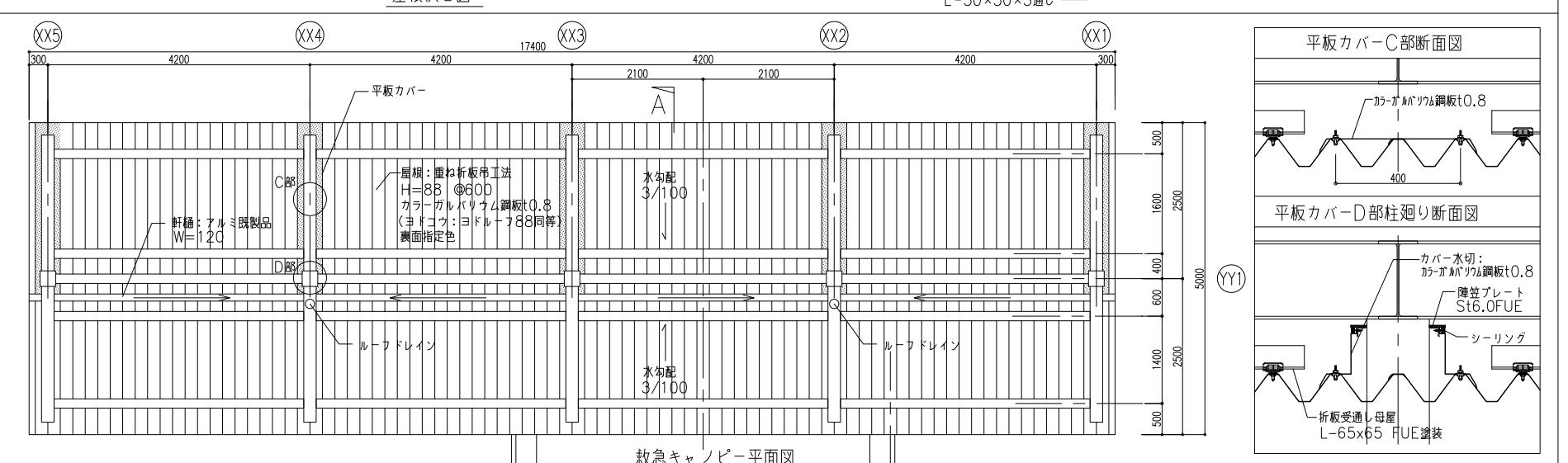
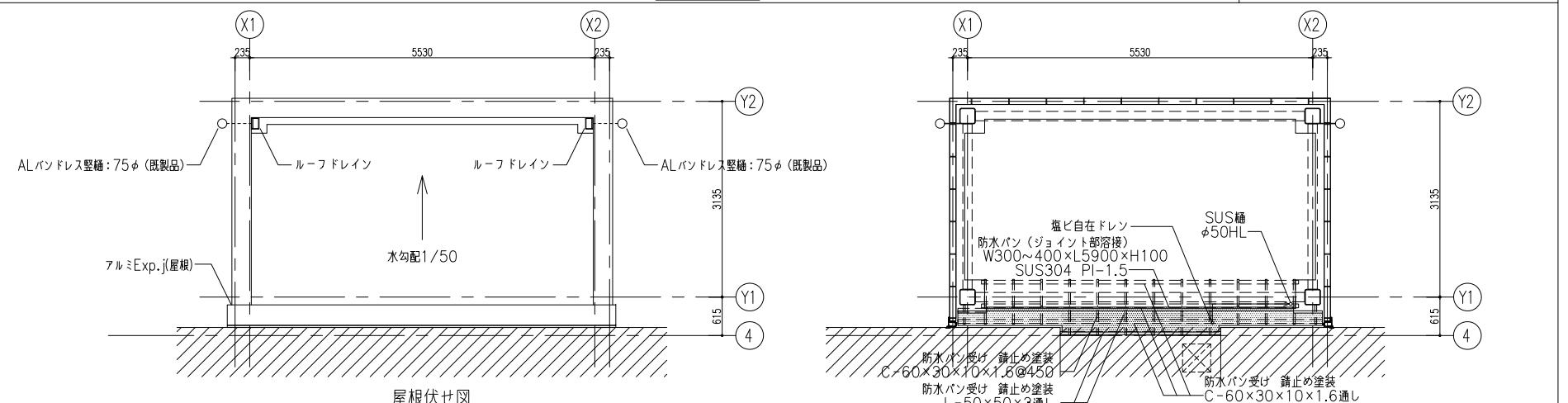
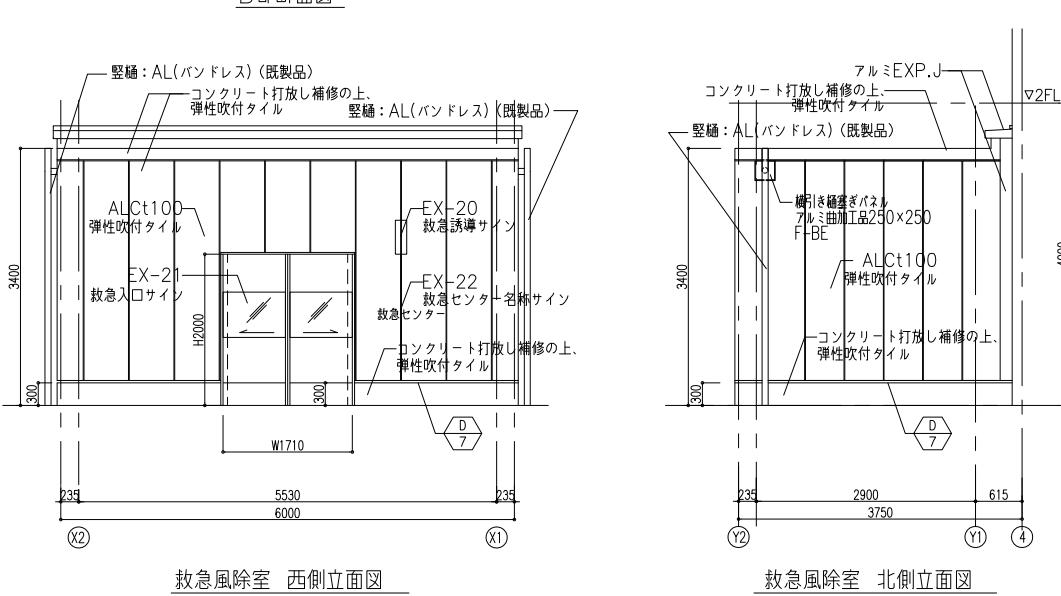
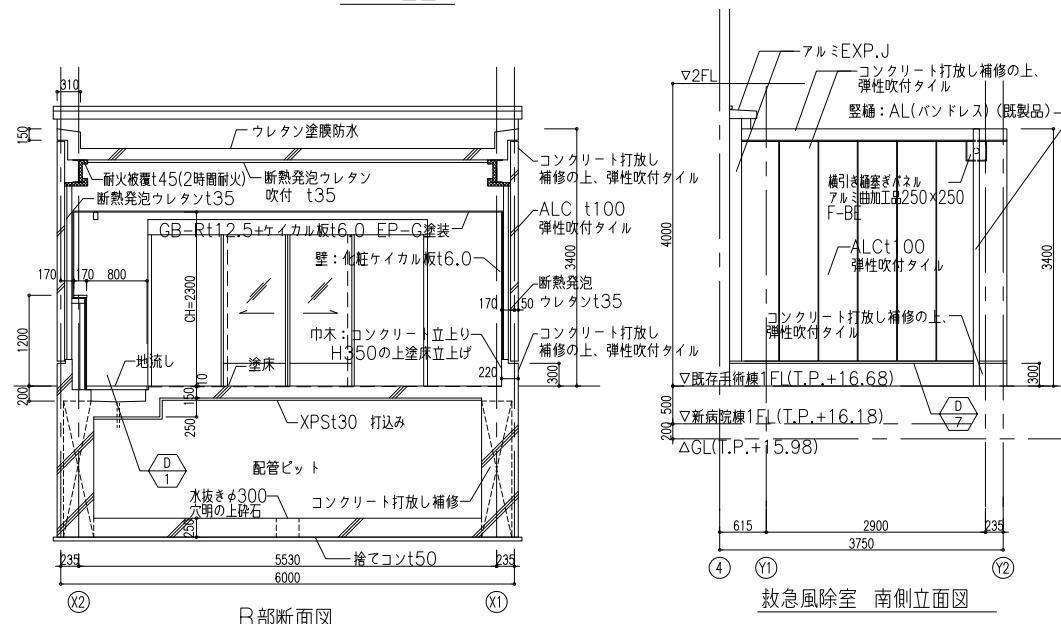
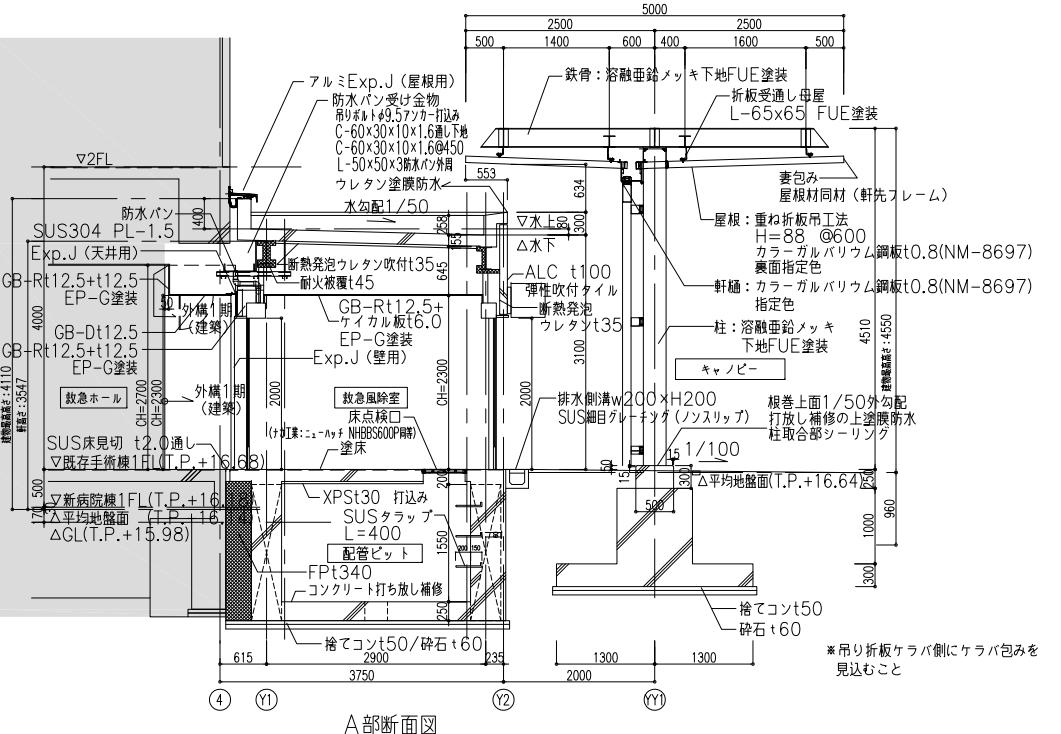
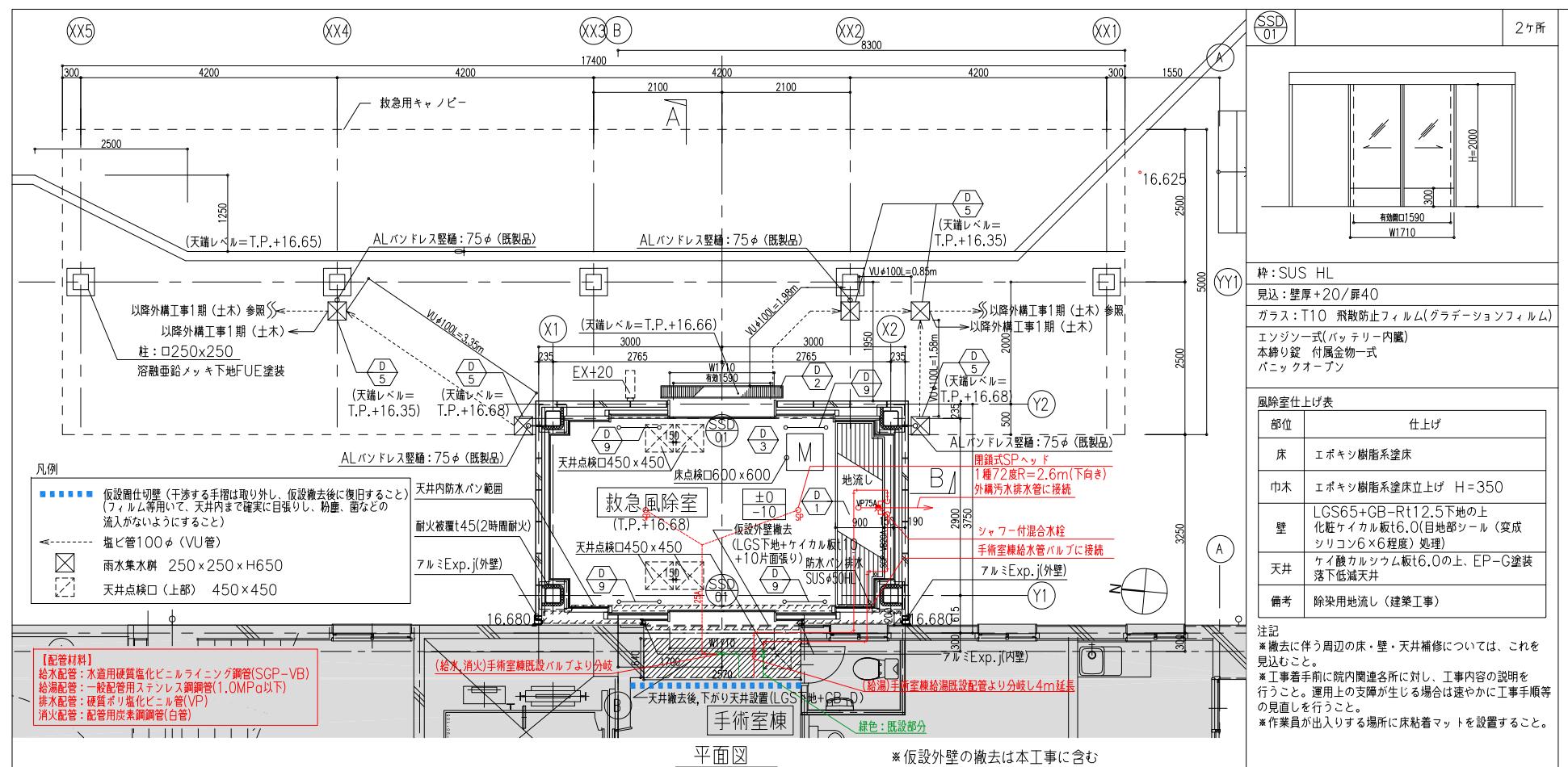
図面番号 A1判 1/250

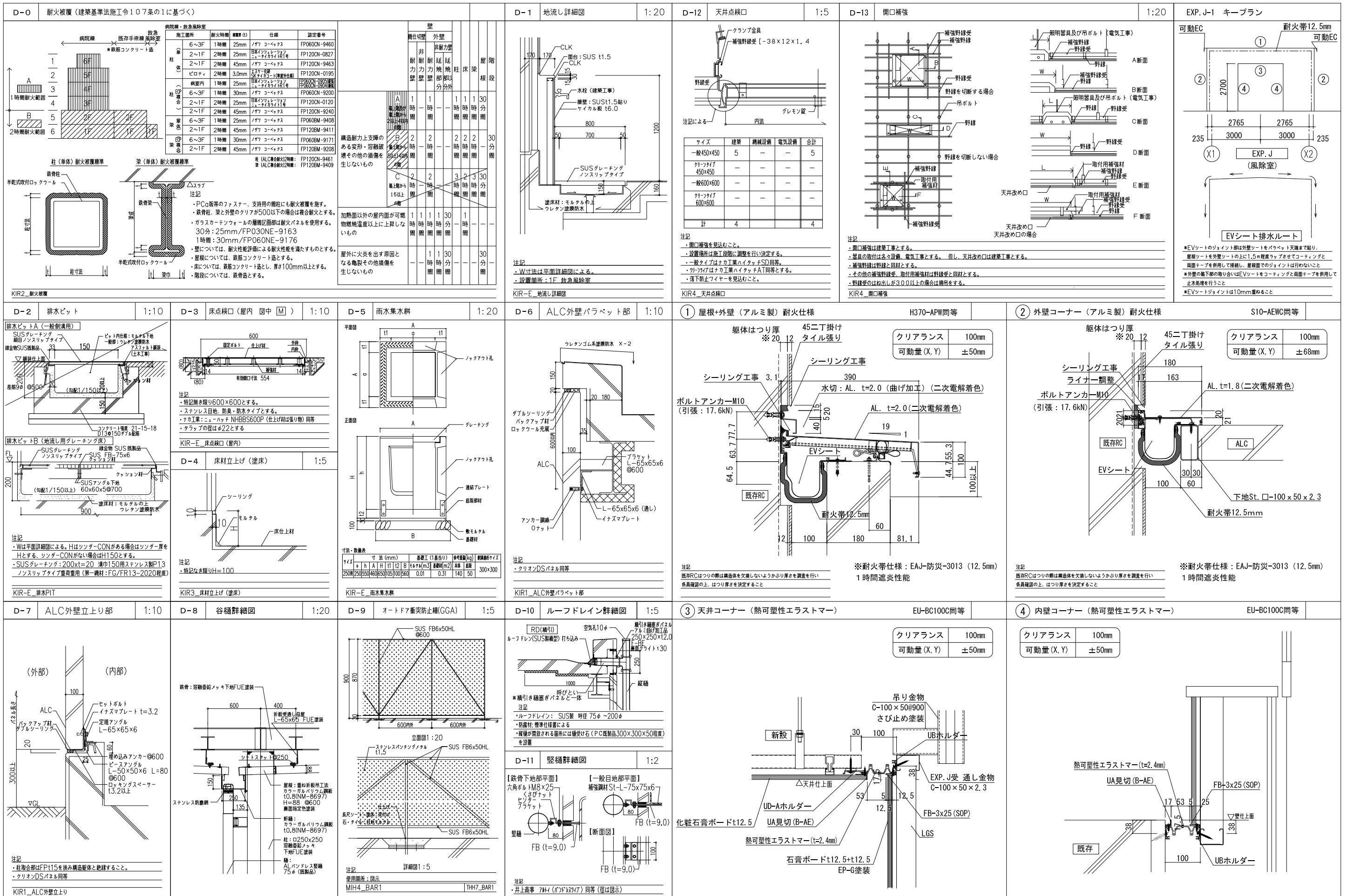
A3判 1/500

11





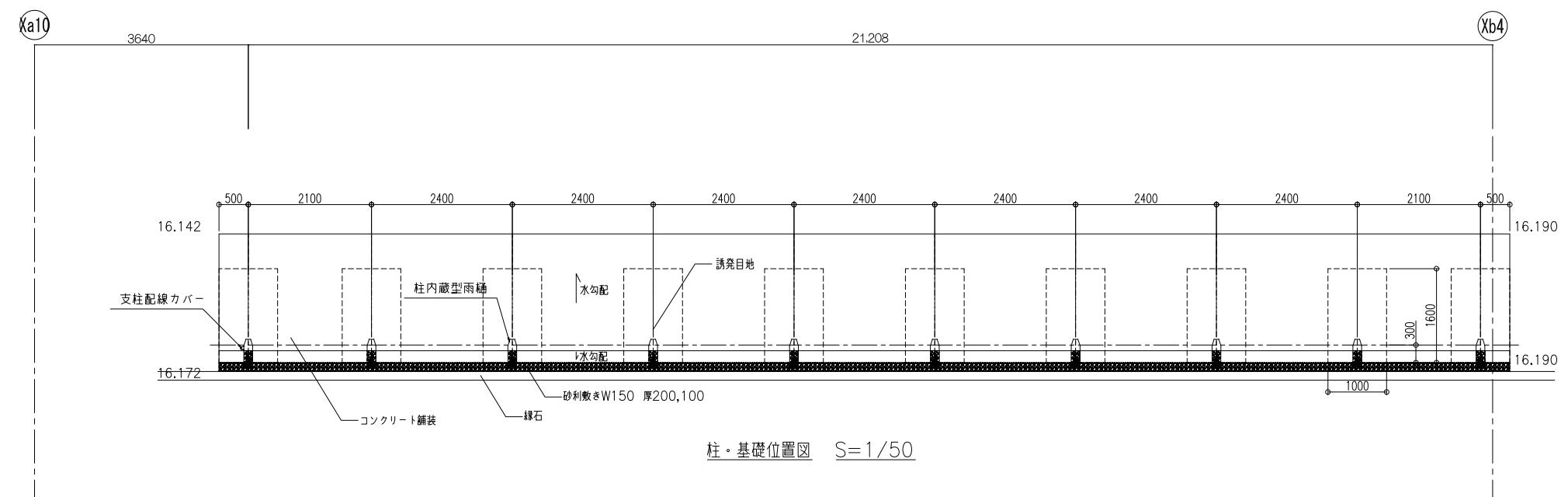
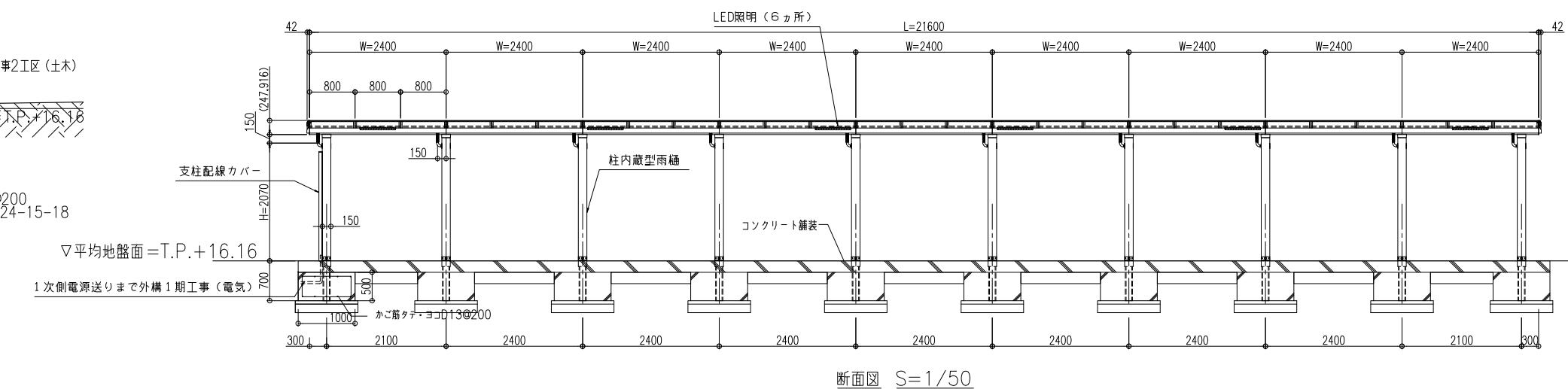
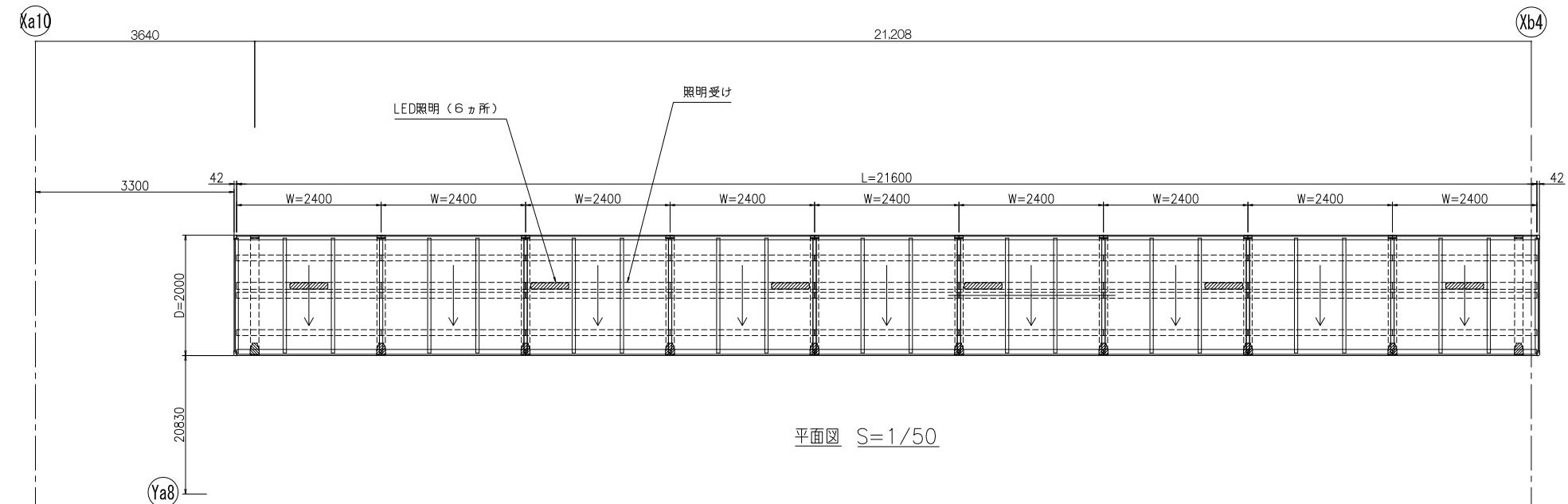
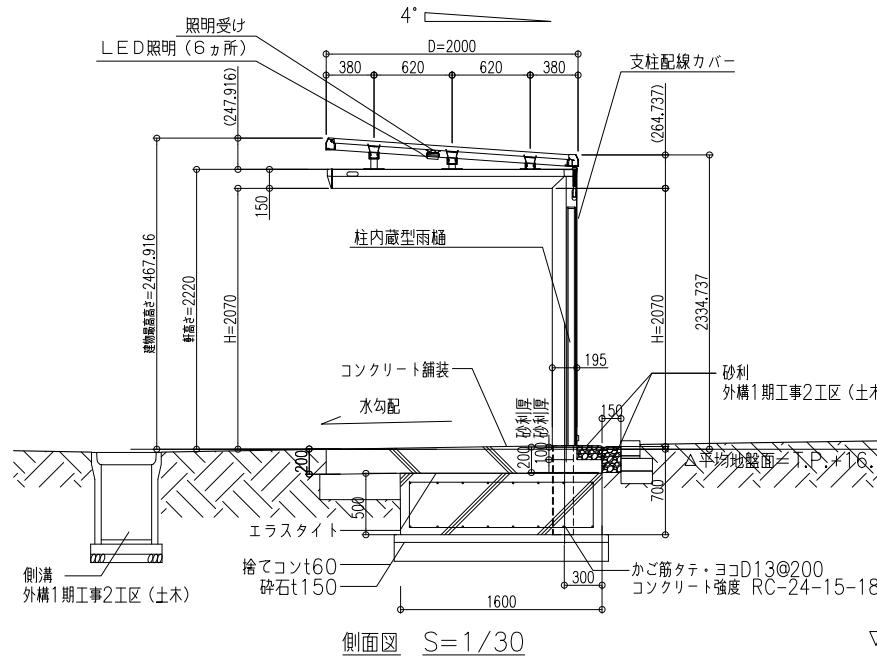




駐輪場2(職員用)仕様表

三協アルミ: レイロード同等程度(アルミ製)	総荷重 (600 N/m ²)
本体 色	規格色
屋根パネル (材質)	グレースモーク(GLM)
柱 (材質)	一本柱タイプ(偏心柱)
側面パネル (材質)	熱被吸板ポリカーボネート板 t=3.0(DW-0082)
上 (材質)	LED照明(特)
	支柱配線カバー、照明受け

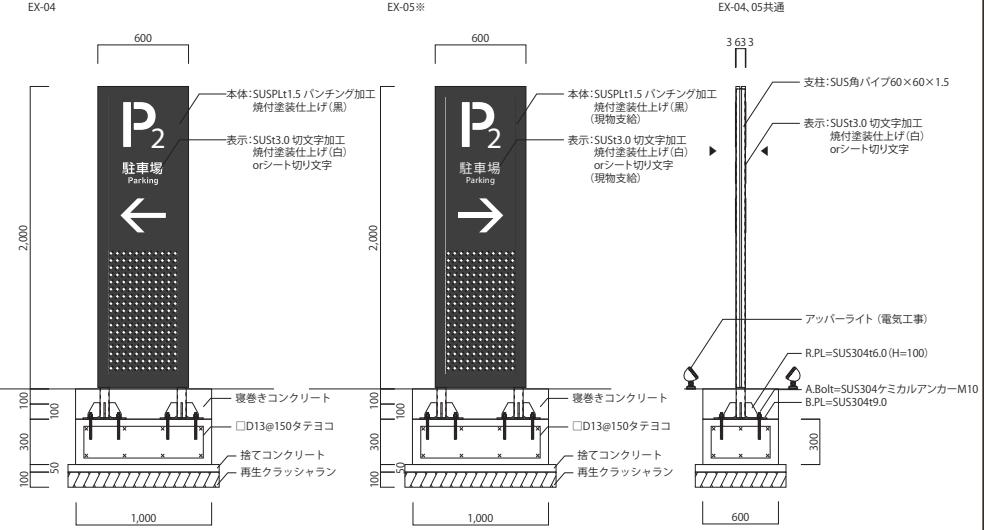
基礎の長期地耐力は30kN/m²以上とする
2次側配線・点滅制御スイッチは外構1期工事(建築)とする
※特記なき限り記載のものは本工事とする



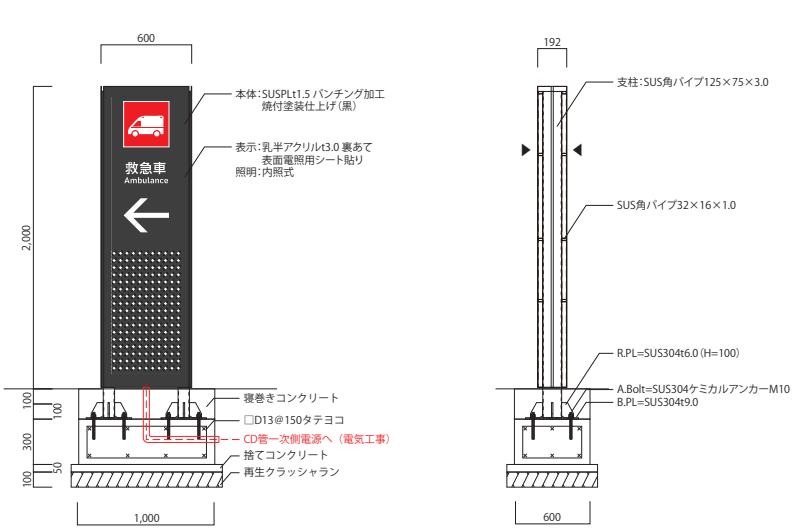
→ : 排水位置を示す
← : 水勾配を示す

サイン特記仕様書 (本設計図書は、特記仕様書・リスト・配置図・意匠図で構成。)	サインリスト																																																																																																																																																					
<p>■表示基準</p> <p>施設名称文字特記注意： 計画施設名称のロゴおよびマークに関しては、文字データ支給入手のうえで製作とします。 なおデータが無く、作図製作しなければならない場合は、別途ロゴ制作費用が発生します。</p>	E:外構1期																																																																																																																																																					
<p>マーク 霧島市立医師会医療センター</p> <p>タイプフェイス 病院サイン計画における視認性と可読性を考慮した書体を使用する。 使用する書体については、管理者から指定がない場合は下記書体を使用する。 施設全体を通して、統一した書体を使用することとする。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作図記号</th> <th rowspan="2">サインアイテム名称</th> <th rowspan="2">スタイル</th> <th rowspan="2">照 明</th> <th rowspan="2">合 計</th> <th colspan="6">外構 病院棟階層</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>EX</th> <th>1F</th> <th>2F</th> <th>3F</th> <th>4F</th> <th>5F</th> <th>6F</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ EX-04</td> <td>駐車場入口サイン（自立外照）</td> <td>自立</td> <td>LED外照</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ EX-05</td> <td>車両誘導サインA（自立外照）</td> <td>自立</td> <td>LED外照</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>現物支給</td> </tr> <tr> <td>■ EX-06</td> <td>救急車入口サイン（自立内照）</td> <td>自立</td> <td>LED内照</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ EX-10</td> <td>関係者専用サイン</td> <td>自立</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ EX-14</td> <td>外構案内マップサイン</td> <td>自立</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ EX-15</td> <td>出口誘導サイン</td> <td>自立</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ EX-20</td> <td>救急誘導サイン（突出内照）</td> <td>突出</td> <td>LED内照</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ EX-21</td> <td>救急入口サイン</td> <td>扉貼</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ EX-22</td> <td>救急センター名称サイン</td> <td>壁付</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ EX-23</td> <td>インターフォンサイン</td> <td>外壁</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	作図記号	サインアイテム名称	スタイル	照 明	合 計	外構 病院棟階層						備 考	EX	1F	2F	3F	4F	5F	6F	■ EX-04	駐車場入口サイン（自立外照）	自立	LED外照	1	1	-	-	-	-	-	-		■ EX-05	車両誘導サインA（自立外照）	自立	LED外照	1	1	-	-	-	-	-	-	現物支給	■ EX-06	救急車入口サイン（自立内照）	自立	LED内照	2	2	-	-	-	-	-	-		■ EX-10	関係者専用サイン	自立	-	2	2	-	-	-	-	-	-		■ EX-14	外構案内マップサイン	自立	-	1	1	-	-	-	-	-	-		■ EX-15	出口誘導サイン	自立	-	1	1	-	-	-	-	-	-		■ EX-20	救急誘導サイン（突出内照）	突出	LED内照	1	1	-	-	-	-	-	-		■ EX-21	救急入口サイン	扉貼	-	1	1	-	-	-	-	-	-		■ EX-22	救急センター名称サイン	壁付	-	1	1	-	-	-	-	-	-		■ EX-23	インターフォンサイン	外壁	-	1	1	-	-	-	-	-	-	
作図記号	サインアイテム名称						スタイル	照 明	合 計	外構 病院棟階層						備 考																																																																																																																																						
		EX	1F	2F	3F	4F				5F	6F																																																																																																																																											
■ EX-04	駐車場入口サイン（自立外照）	自立	LED外照	1	1	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																											
■ EX-05	車両誘導サインA（自立外照）	自立	LED外照	1	1	-	-	-	-	-	-	現物支給																																																																																																																																										
■ EX-06	救急車入口サイン（自立内照）	自立	LED内照	2	2	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																											
■ EX-10	関係者専用サイン	自立	-	2	2	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																											
■ EX-14	外構案内マップサイン	自立	-	1	1	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																											
■ EX-15	出口誘導サイン	自立	-	1	1	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																											
■ EX-20	救急誘導サイン（突出内照）	突出	LED内照	1	1	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																											
■ EX-21	救急入口サイン	扉貼	-	1	1	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																											
■ EX-22	救急センター名称サイン	壁付	-	1	1	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																											
■ EX-23	インターフォンサイン	外壁	-	1	1	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																											
<p>和文字：角ゴシック系 (たづがね角ゴシック Regular)</p> <p>総合案内 診察室</p> <p>いろはにはへとちりぬるを・・・ イロハニホヘトチリヌルヲ・・・ 伊呂波仁保辺登知里奴留遠・・・</p>																																																																																																																																																						
<p>英文字・数字：角ゴシック系 (DIN Next LT Pro Condensed)</p> <p>General Information Consultation Room</p> <p>A B C D E F G H I J K L M O P Q R S T U V W X Y Z a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0</p>																																																																																																																																																						
<p>プロック番号・診察室番号：角ゴシック系 (DIN Next Slab Pro Medium)</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 0</p>																																																																																																																																																						
<p>ピクトグラム</p> <p>共用性の高い表示においてユニバーサルデザインを考慮したピクトグラム (標準案内図記号) を活用します。※「標準案内図記号」はJISで規格化されております。</p>																																																																																																																																																						
<p>■特記事項</p> <p>材料組成基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鉄鋼材はSS400材 鋼止塗装とする。 2. ステンレス材使用の場合は、SUS304とする。 3. 塗装は焼付塗装の表記を含め、フッ素焼付塗装とする。 また塗料は室内環境配慮型／F☆☆☆☆（メーカー対応）とする。 4. 粘着材・接着剤は、室内環境配慮型／F☆☆☆☆（メーカー対応）とする。 5. アクリル樹脂材等は全て系面取りを施すものとする。 6. シート表記はポリ塩化ビニルフィルム（メーカー対応）とし、垂直使用にて5年以上とする。 7. デジタルプリント (DP) 表記は退色・耐光性を考慮油性インク対応としUVラミネート加工仕上する。 <p>実施（施工）基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施工に先駆け必ず必要に応じたヒアリングを行ない、総意承諾を得ることとする。 2. いずれの工法においても施工承諾書および施工図を管理者に提出し承諾を得た上で施工するものとする。 3. サイン表示内容については監理者との協議確認のうえ、承認を得ることとする。 4. 原寸等の原稿は基準になる表示のみの対応とする。（誘導・室名程度） 5. 使用する素材およびその色彩・仕上に関しては、サンプル見本を提出のうえ承認を得ることとする。 6. サンプル模型およびモルタル用サイン等は、実施協議のうえ検討確認する。 7. サイン取付位置関係はあらかじめ図面上にて別途工事との調整を行ない、監理者との確認指示によることとする。 8. 一次側電源は電気設備工事（タイマー・スイッチ等含め別途工事）とし、接続工事以降、二次配線からをサン工事とする。 9. サイン本体に組み込む内照以外の外照照明（ウォールウォッシャー及びダウン&アップライト）等は、器具を含め電気工事とする。 10. サインの基礎、下地は建築工事とする。 11. サイン基礎のコンクリート強度は21-15-18とする。 12. 既存手術棟内のサインについては、既設サインの取り外しを見込むこと。 尚、取り外し跡の補修は、建築工事とする。 <p>その他</p> <p>医療・福祉関係機関におけるサインは特に重要性を帯びているため、実施サイン施工業者の選定にあたり、実施工をはじめ実施プランニングとその意匠デザイン全般において、ユニバーサルデザインを含めたウェイファインディングの観点から計画ができ且つ、機関の運営や状況を良く理解し、過去に本件と同規模以上のサイン計画および実施工の経験を持ち、且つ医療・福祉関係機関のサイン計画知識を持つサインデザイナーを有する施工業者を選定すること。また専門のサインデザイナー監修の上で行なうこととします。</p>																																																																																																																																																						

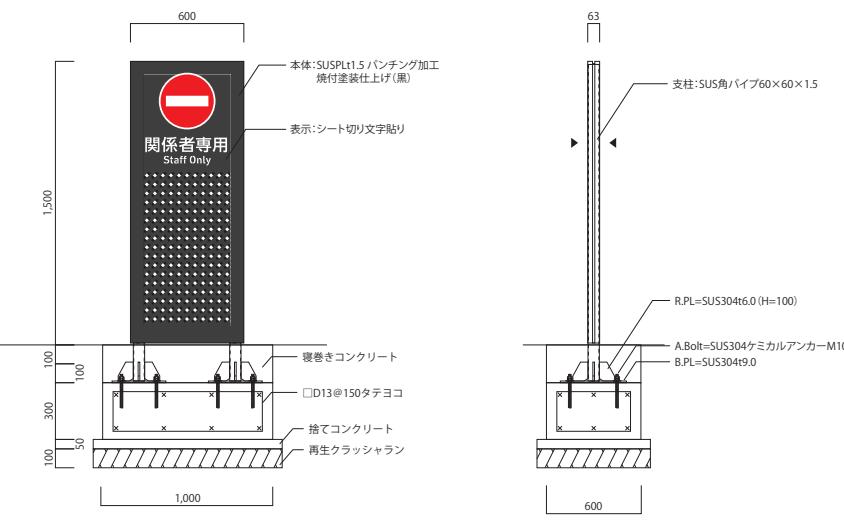
code EX-04・05	title 駐車場入口サイン・車両誘導サインA	type 自立	scale A1:1/25 A3:1/50	※EX-05サイン本体は病院より現物支給とし、基礎及びサイン設置工事は本工事に含むものとする。
発注区分:E	total 1・1			



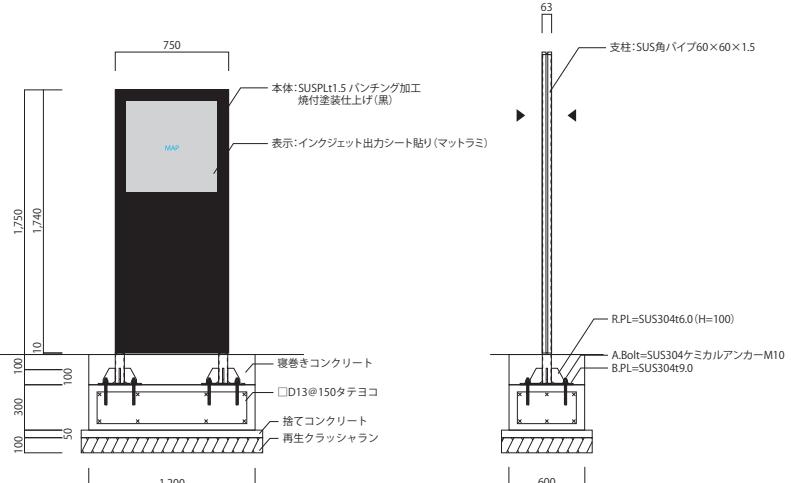
code EX-06	title 救急車入口サイン	type 自立	scale A1:1/25 A3:1/50
発注区分:E	total 2		



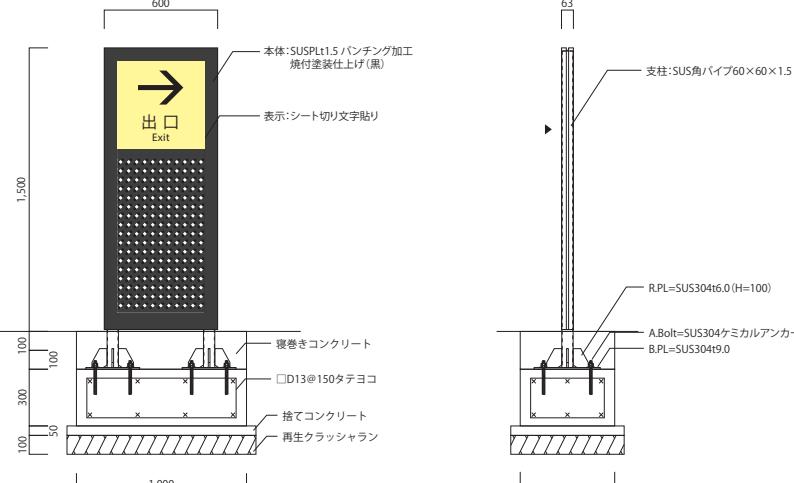
code EX-10	title 関係者専用サイン	type 自立	scale A1:1/20 A3:1/40
発注区分:E	total 2		



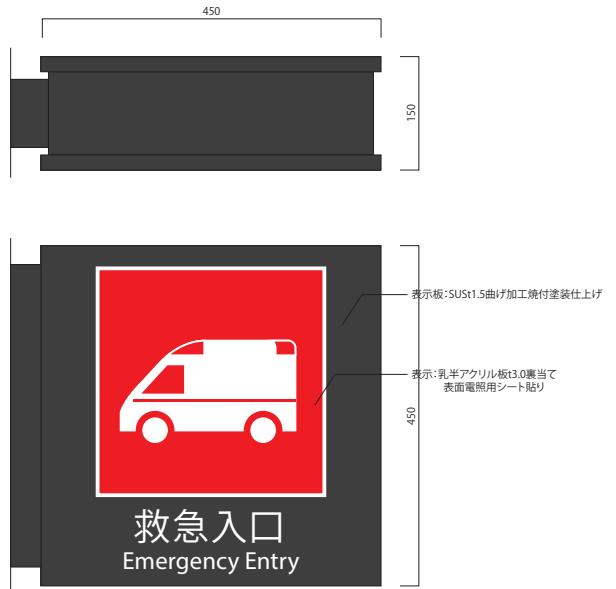
code EX-14	title 外構案内マップサイン	type 自立	scale A1:1/25 A3:1/50
発注区分:E	total 1		



code EX-15	title 出口誘導サイン	type 自立	scale A1:1/20 A3:1/40
発注区分:E	total 1		



code EX-20	title 救急誘導サイン(内照式)	type 突出	scale A1:1/5 A3:1/10
発注区分:E	total 1		



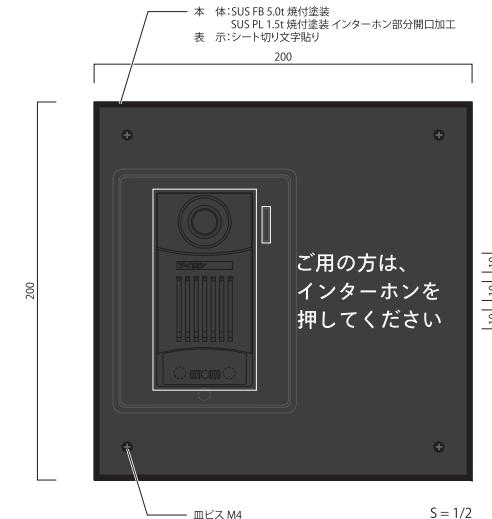
code EX-21	title 救急入口サイン	type 扉貼	scale A1:1/10 A3:1/20
発注区分:E	total 1		



code EX-22	title 救急センター名称サイン	type 扉貼	scale A1:1/10 A3:1/20
発注区分:E	total 1		



code EX-23	title インターフォンサイン	type 外壁	scale A1:1/2 A3:1/4
発注区分:E	total 1		



■工事手順図（参考図）

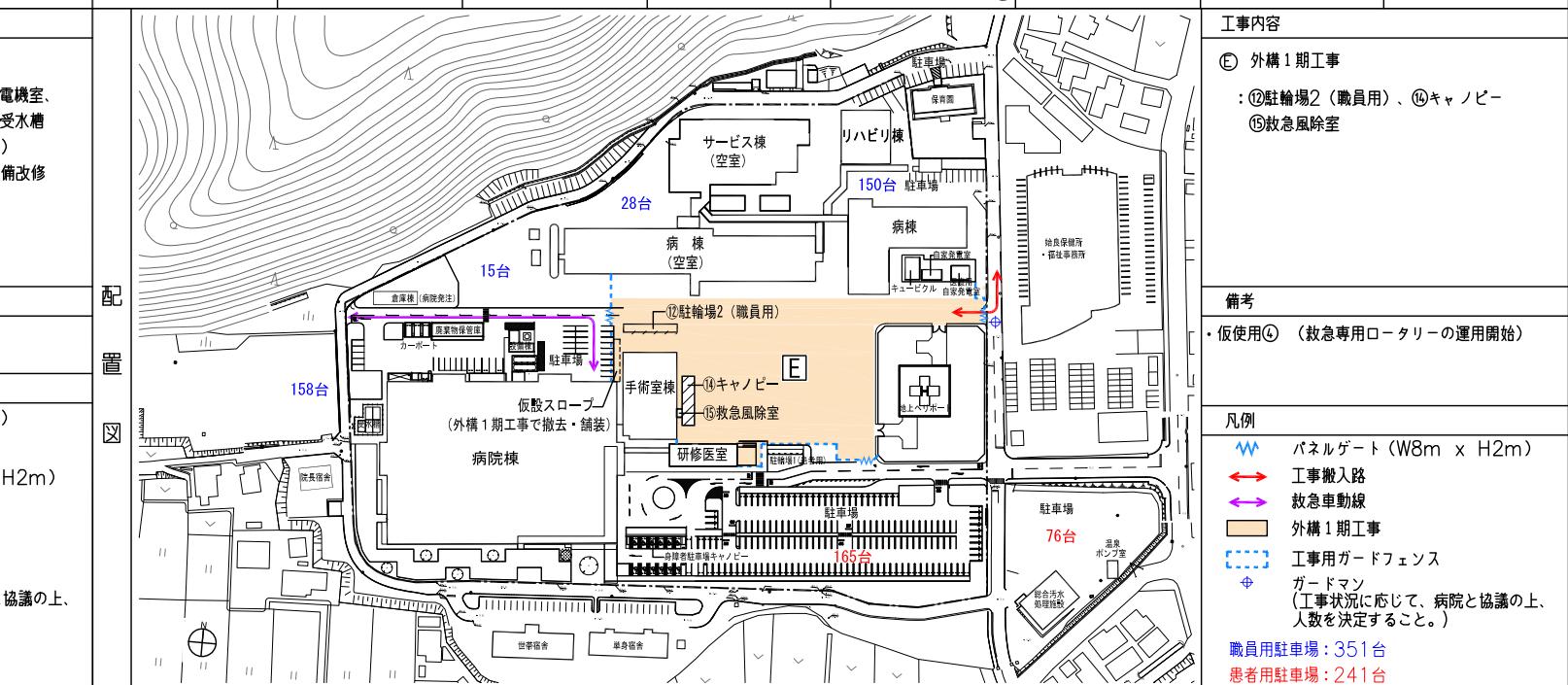
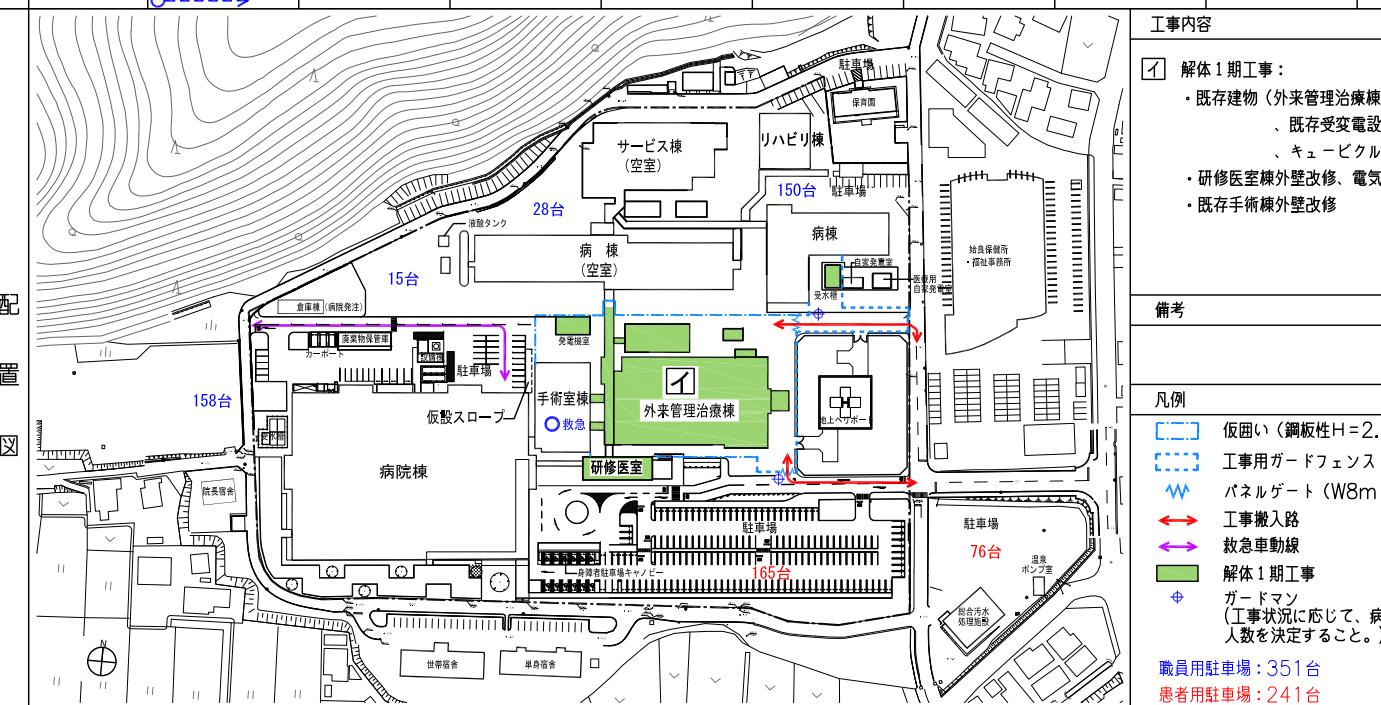
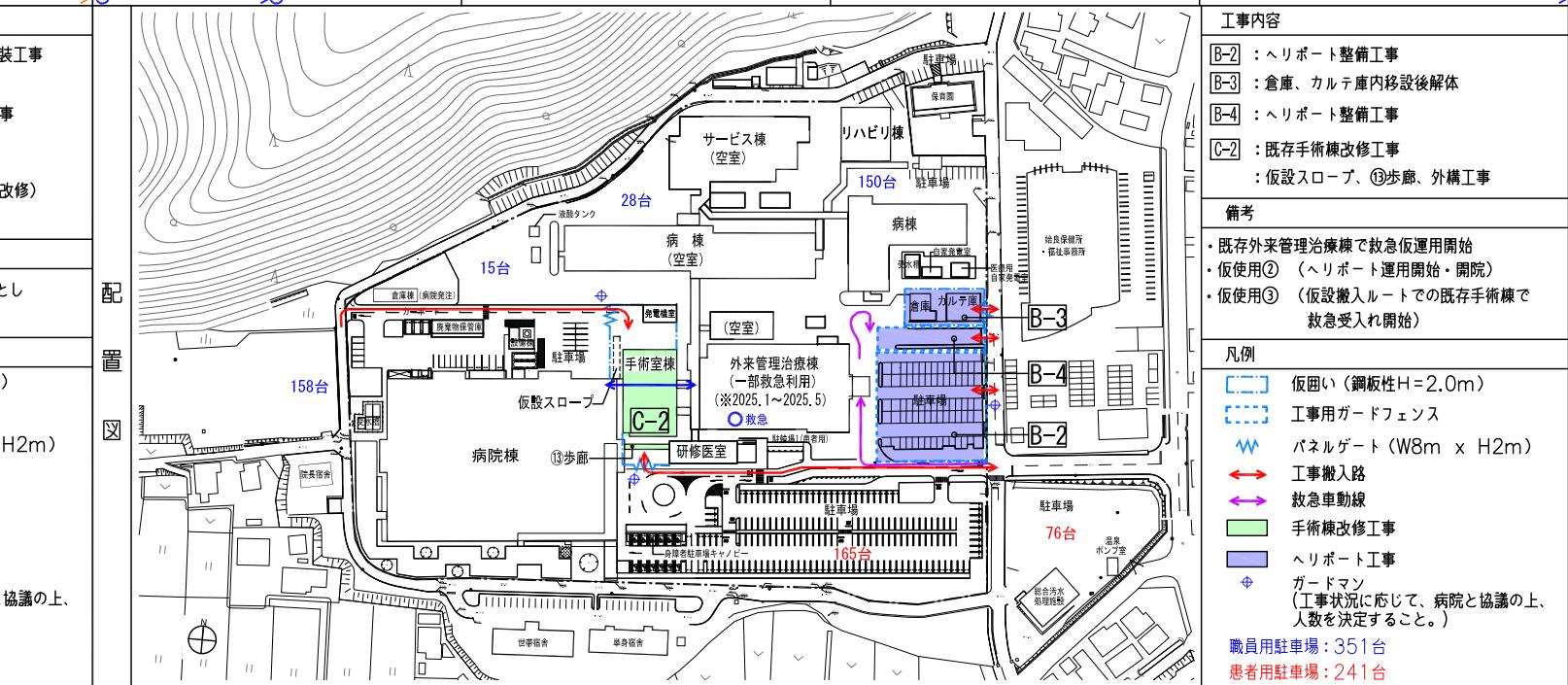
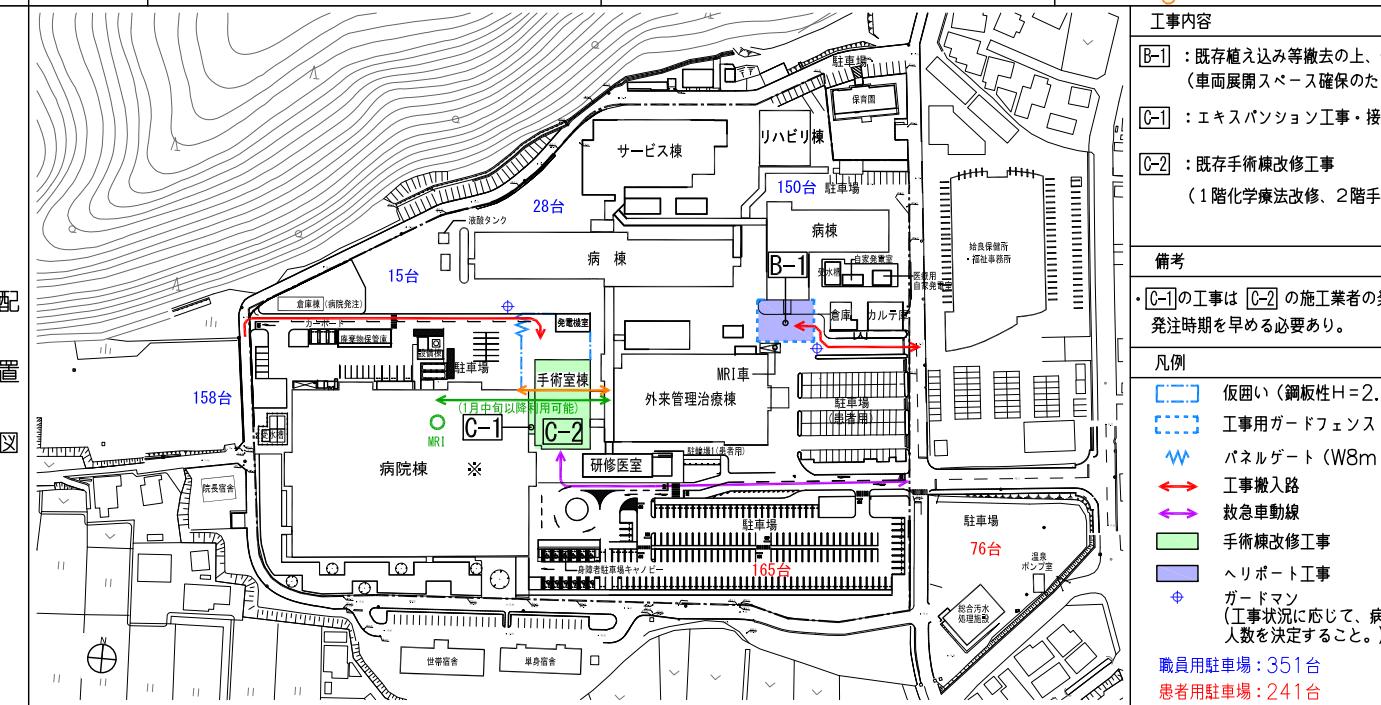
The diagram illustrates the timeline for the transition and renovation of the existing surgery building and helipad work, divided into two main steps: STEP5 and STEP6.

STEP5 引越し、既存手術室棟改修工事、ヘリポート工事

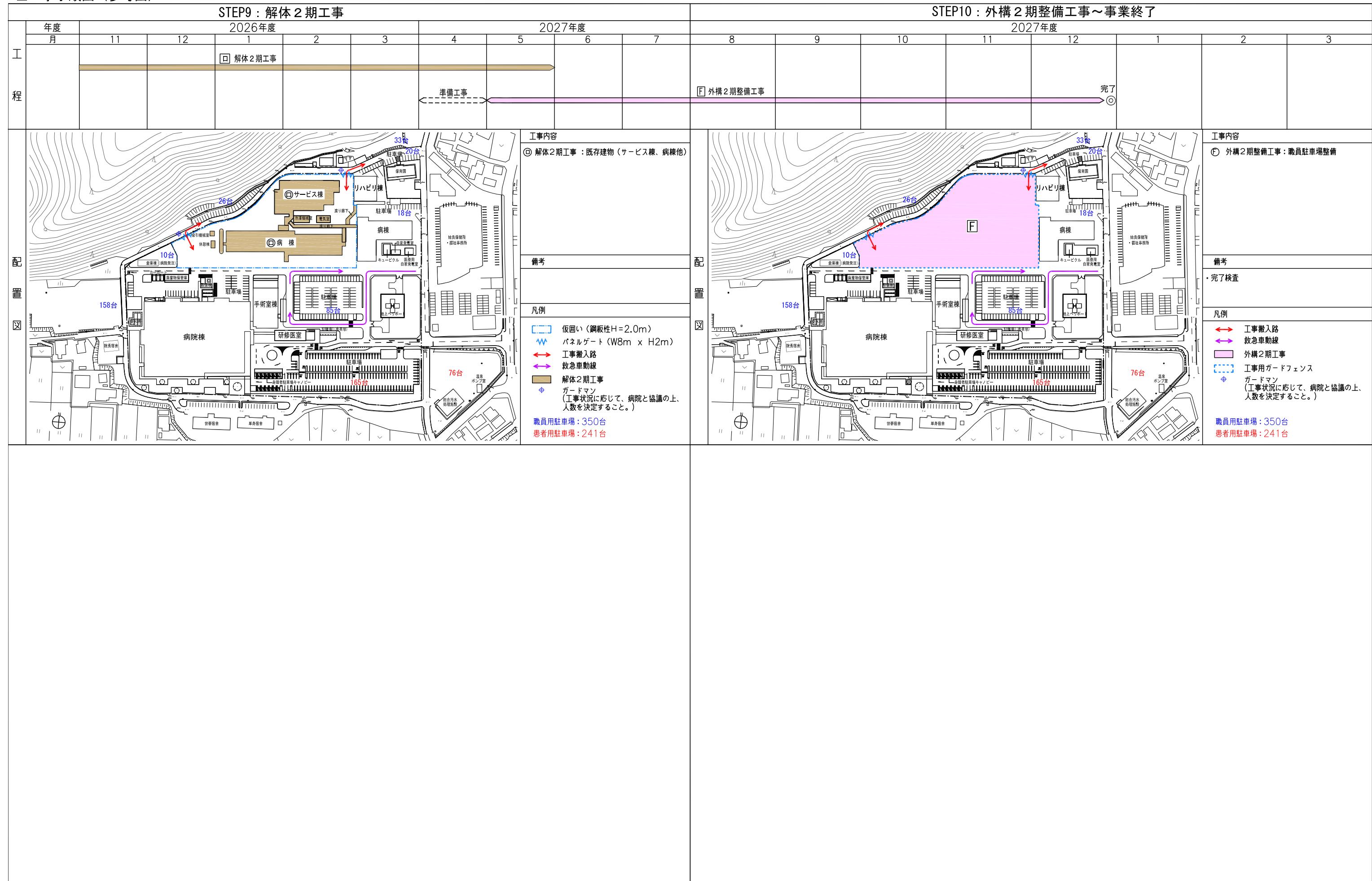
STEP6 既存手術室棟改修工事、ヘリポート工事

年度 (Year)

年度 (Year)	2024年度 (2024 Year)			2024年度 (2024 Year)			2025年度 (2025 Year)		
月 (Month)	11	12	1	2	3	4	5		
工程 (Project)	病院棟開院準備 (Hospital Building Opening Preparation)			開院 (Opening)	解体1期工事 (Demolition Phase 1 Work)				
	B-1 撤去・整備工事 (Removal and Reconstruction Work)			B-2 撤去・整備工事 (Removal and Reconstruction Work)	B-3 撤去工事 (Removal Work)			B-4 整備工事 仮使用 (Reconstruction Work Temporary Use)	
	C-1 エキスパンションジョイント工事 (Expansion Joint Work)			新病院 MR[早期稼働] (New Hospital MR [Early Operation])			C-2 撤去・改修 (フェーズ1) (Removal and Renovation Phase 1)		
	C-2 撤去・改修 (フェーズ1) (Removal and Renovation Phase 1)			検査 (Inspection)	C-2 撤去・改修 (フェーズ2) (Removal and Renovation Phase 2)			C-2 撤去・改修 (フェーズ3) (Removal and Renovation Phase 3)	
	C-3 手術室棟改修工事 (Operating Room Building Renovation Work)			C-4 救急引越作業 (Emergency Relocation Work)			C-5 旧病院 (外来管理治療棟 外来部分)で救急外来を稼働 (Emergency Outpatient Service Operation at the Old Hospital (Outpatient Management Treatment Building))		
	C-6 引越し作業 (既存病院→新病院) (Relocation Work (Existing Hospital → New Hospital))			C-7 救急引越作業 (Emergency Relocation Work)			C-8 旧病院 (外来管理治療棟 外来部分)で救急外来を稼働 (Emergency Outpatient Service Operation at the Old Hospital (Outpatient Management Treatment Building))		



■工事手順図（参考図）



構造設計概要		建築工事(構造)特記仕様書	4章 地業工事	5節 場所打ちコンクリート杭地業
1 構造概要		適用について	1節 共通事項	4.5.4 材料その他
a 構造種別		地上 : ○ RC造 ● S造 ○ SRC造 ○ その他() 地下 : ○ RC造 ○ S造 ○ SRC造 ○ その他()	4.1.4 [追加] 特殊地業の施工に際しては、3.3.4に示す内容について確認し、監理者に報告すること。 周辺環境に対する配慮	a 鉄筋 茄筋の形状、鉄筋がごの補強およびスペーサー等の仕様は構造図による。 鉄筋のかぶり厚さ ○ 100mm ○ 200mm(手掘り深確)
b 架構形式		地上 : X方向: ラーメン構造 Y方向: ラーメン構造 地下 : X方向: Y方向:	2節 試験及び報告書	b コンクリート セメント ○ 高炉セメントB種 ○ 普通セメント コンクリートの設計基準強度(N/mm ²) ○ 24 ○ 27 ○ 30 ○ 33 ○ コンクリートの種別 ○ A種(無水摺)の場合 ○ B種(左記以外) スランプ(cm) ○ 18 ○ 21 コンクリートの打込に支障の恐れがある場合は、監理者の承諾を受けてスランプを10cmとすることができる。
c 耐震構造システム		● 耐震構造 重要度係数 I = ○ 1.0 ○ 1.25 ○ 1.30 ● 1.5 重要度係数の適用 ● 2次設計のみ ○ 1次・2次設計とも ○ 免震構造(免震層の位置: ○ 基礎免震 ○ 中間階(柱頭)免震 [階下]) ○ 制振構造(○ 履歴系 ○ 粘性系)	4.2.2 試験杭 ○ 試験杭 ○ 最初の1本(ボーリング調査位置の近傍とする) ○ ()本 位置は構造図による 工法が複数の場合は、工法ごとに実施する。	[追加] c 構造体強度補正値(S) ○ 3 N/mm ² ○ N/mm ² ただし、場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び拡底杭工法は、工法で定められた条件の値とする。なお、上記以外の工法については評定条件による。
d 基礎種別		○ 杭基礎 (○ 場所打ちコンクリート杭 ○ 既設コンクリート杭 ○ 鋼管杭) ● 直接基礎 (○ 独立基礎 ● べた基礎 ● 布基礎) ● 浅層混合改良 支持層 : ローム層(Lm層) 設計GL- 2.5 m 以深	4.2.3 杭の載荷試験 ○ 杭の鉛直載荷試験 ()箇所 位置及び載荷量等は構造図による 又は水平載荷試験 試験の方法、報告書の記載事項等は構造図による	d 支持地盤: 構造図による d 工法: ○ アースドリル工法 ○ リバース工法 ○ オールケーシング工法 杭頭鋼管巻き ○ 有(○ SK400 ○ SKK490) ○ 無 拡底 ○ 有 ○ 無 拡底部の工法 ○ アースドリル工法 ○ リバース工法 リバース工法スタンダードバブの建込方法 ○ 油圧ジャッキ ○ バイプロハンマー ○ 深確工法 ○ 手掘り ○ 機械掘り
2 計算方法		● 許容応力度等計算(耐震設計の計算ルート: 1) ○ 保有水平耐力計算(耐震設計の計算ルート:) ○ 告示2009号(告示免震) ○ その他の計算法() ○ 大臣認定 (○ 高層 ○ 免震 ○ その他())	4.2.4 地盤の載荷試験 ○ 地盤の平板載荷試験 ()箇所 位置及び載荷量等は構造図による 試験の方法、報告書の記載事項等は構造図による	e 孔隙測定: ○ 全数 ○ 5本に1本 f スライム処理: スライム処理は、砂分離装置およびスライム除去装置を用いて行う 安定液の回収液砂分率 ○ 2%以下 ○ 1%以下 ○ 測定頻度 ○ 全数 砂分率の測定は鉄筋かご建込み直前に孔底付近から回収した安定液で測定すること。ただし、砂層が少ない地層構成の場合、試験杭の結果に基づき砂分率の管理値及び測定の有無を監理者と協議すること。
3 外力など		3章 土工事	4.2.6 [追加] 事前調査 ○ 支持地盤確認用の追加ボーリング ()箇所 ボーリング径 66φ 位置、試験の方法、報告書の記載事項等は構造図による	g 施工精度: 杭の水平方向の位置のずれの精度 ○ 100mm ○ mm 静的破砕剤の使用 ○ 無 ○ 有
a 地盤力		1節 共通事項	3節 既製コンクリート杭地業	出来形確認 杭施工後、杭頭から1mの範囲の土を掘削し、杭頭のコンクリートの状況を確認する。確認後の埋戻しは碎石で行き転圧を十分行うこと。 杭頭鋼管巻きの場合、この項目は省略する。
地域係数		3.1.4 [追加] その他 Z= ○ 1.2 ○ 1.0 ○ 0.9 ● 0.8 ○ 0.7	4.3.3 材料 a 材料: 構造図による b 工法: ○ セメントミルク工法 支持地盤への掘削深さは1.5m、杭の根入れ深さは1.0mとする	杭頭の処理
地盤種別		第2種地盤 T _r = 0.60 sec (○ 施行令 ● 実測)	4.3.4 セメントミルク工法 ○ 特定埋込杭工法 建築基準法に基づき埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの ○ プレボーリング拡大根固め工法 周辺固定液 ○ 有 ○ 無 ○ 中堀拡大根固め工法 ○ その他の工法 ()	出来形の確認 杭施工後、杭頭から1mの範囲の土を掘削し、杭頭のコンクリートの状況を確認する。確認後の埋戻しは碎石で行き転圧を十分行うこと。 杭頭鋼管巻きの場合、この項目は省略する。
振動特性係数		X方向: R _v = 1.00 Y方向: R _v = 1.00	4.3.5 特定埋込杭工法	杭頭鋼管巻きの場合、この項目は省略する。
標準せん断力係数		一次設計 X方向: C ₀ = 0.30 二次設計 X方向: C ₀ = Y方向: C ₀ = 0.30 Y方向: C ₀ =	4.3.6 継手 [追加] a ボーリング調査での障害物等の記録 ○ 有(記事:) ● 無	杭頭の処理
b 風荷重(N/m ²)		上記のC ₀ には、重要度係数を含まない。	4.3.8 [追加] b 試掘による発生土内の障害物等の調査 ○ 行う ○ 行わない 試掘調査は、敷地内を10mグリッド毎に1箇所、深さ2m程度を目安にして計画する。	4.5.7 [追加] 杭頭の処理
c 積雪荷重(N/m ²)		3.1.5 [追加] 地中障害等	4.3.10 [追加] c 杭先端部の形状: ○開放形 ○半開放形 ○閉塞形 ○構造図による d 継手の工法: ○アーカ溶接 ○無溶接 無溶接継手は指定性能評価機関による性能評価品とすること e PHC杭端板の引張対応: ○する(構造図による) ○しない f 杭頭処理: ○レベル止め ○切りそろえ(主筋は基礎スラブに定着) g 杭頭強化: ○スタッド式杭頭接合工法(SC杭以外の場合) ○鉄筋溶接工法(SC杭の場合) ○() 仕様及び材料等は、構造図による	4.5.9 [追加] 来出形の確認
d 積載荷重(N/m ²)		3.1.6 [追加] 既存杭、軸体の撤去及び再利用	h 支持地盤: 構造図による i 施工精度: 杭の水平方向の位置のずれの精度 ○ 100mm ○ mm j 根固め部の強度確認と形状確認 先端支持力係数 α < 300 ○ 行う ○ 行わない 先端支持力係数 α ≥ 300 ○ 行う ○ 行わない 強度確認	4.6.3 砂利及び砂地業: 厚さ(mm) 適用範囲 ● 60 (改良体上部を除く軸体下) ○ 150 () ○ ()
e 土圧及び水圧など		3.2.3 埋戻し及び盛土	4.6.4 捨コンクリート地業: 厚さ(mm) 適用範囲 ● 50 (全ての軸体下) ○ 100 () ○ ()	
f 土圧		3.2.5 建設発生土の処理	4.6.5 床下防湿層: 適用、範囲及び種類は意匠図による	
g 地盤液化化の判定		a 構外処分: ● 指定なし ○ 指定(○ ○ km先で) ○ 処分方法 (○ 積み下ろのまま ○ 敷き均し) 構外処分する際は、関係法令に準拠し適切に処理する。	4.7.1 [追加] 地盤改良など	● 浅層混合処理工法 適用範囲、仕様は意匠図による (既存手術棟風除室、既存手術棟キャノピー)
h 片土圧		b 構内処分: ○ 敷均し整地 ○ 集積天端均し c 構内仮置: ○ 有 ○ 無	○ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様は構造図による	
i 水圧		3.3.1 [追加] 山留め設置	○ 静的締め工法 適用範囲、仕様は構造図による	
4 層間変形角など		3.3.2 山留め	○ 置換コンクリート工法 (ラップルコンクリート) 適用範囲は構造図による コンクリートの設計基準強度(N/mm ²) ○ 15 ○ 18 構造体強度補正値(S)(N/mm ²) ○ 0 ○ 0 ○ 3 スランプ(cm) ○ 15 ○ 18	
j 計算用層間		3.3.3 山留めの撤去	4.4.3 [追加] a 材料: ○ 鋼管杭 ○ SK400, STK400 ○ SKK490, STK490 b 工法: ○ プレボーリングの併用 挖削深さ ○ 構造図による ○ 推定支持力算定方法 構造図による ○ 特定埋込杭工法 建築基準法に基づき埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの ○ 回転柱入(貫入)工法 ○ 鋼管ソリュームセメント杭工法 ○ 中堀拡大根固め工法	4.7.2 [追加] 地盤改良など
k 変形角の限界		3.3.4 [追加] 環境配慮	c 杭先端部形状: ○開放形 ○半開放式 ○閉塞形 d 現場継手の形状: ○鋼管杭 ○アーカ溶接 ○無溶接 無溶接継手は指定性能評価機関による性能評価品とすること ○ H形鋼杭 ○ 高力ボルト ○ 構造図による	● 浅層混合処理工法 適用範囲、仕様は意匠図による (既存手術棟風除室、既存手術棟キャノピー)
l EXP.J部の軸体クリアランス		3.3.5 山留めの撤去	e 杭頭処理: ○ レベル止め ○ 切りそろえ(ガス切断) f ネガティブフリクション対策: ○ 不要 ○ 要(構造図による) g 電気防歎処理: ○ 不要 ○ 要 h 杭頭部の中詰め材料: ○ コンクリート ○ ソイルセメント ○ 山砂 i 杭頭補強: 構造図による j 支持地盤: 構造図による k 施工精度: 杭の水平方向の位置のずれの精度 ○ 100mm ○ mm	○ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様は構造図による
m その他		3.3.6 [追加] 環境配慮	4.4.4 工法	○ 静的締め工法 適用範囲、仕様は構造図による
n 増築の有無		3.3.7 [追加] 環境配慮	4.4.5 継手	○ 置換コンクリート工法 (ラップルコンクリート) 適用範囲は構造図による コンクリートの設計基準強度(N/mm ²) ○ 15 ○ 18 構造体強度補正値(S)(N/mm ²) ○ 0 ○ 0 ○ 3 スランプ(cm) ○ 15 ○ 18
o 地盤調査資料		3.3.8 [追加] 環境配慮	4.4.6 [追加] 杭頭の処理等	4.7.3 [追加] 地盤改良など
p 有		3.3.9 [追加] 環境配慮	4.4.7 [追加] 杭頭の処理等	● 浅層混合処理工法 適用範囲、仕様は意匠図による (既存手術棟風除室、既存手術棟キャノピー)
q 物理試験		3.3.10 [追加] 環境配慮	4.4.8 [追加] 杭頭の処理等	○ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様は構造図による
r 圧密試験		3.3.11 [追加] 環境配慮	4.4.9 [追加] 杭頭の処理等	○ 静的締め工法 適用範囲、仕様は構造図による
s その他()		3.3.12 [追加] 環境配慮	4.4.10 [追加] 杭頭の処理等	○ 置換コンクリート工法 (ラップルコンクリート) 適用範囲は構造図による コンクリートの設計基準強度(N/mm ²) ○ 15 ○ 18 構造体強度補正値(S)(N/mm ²) ○ 0 ○ 0 ○ 3 スランプ(cm) ○ 15 ○ 18
t 増築の有無		3.3.13 [追加] 環境配慮	4.4.11 [追加] 杭頭の処理等	4.7.4 [追加] 地盤改良など
u 地盤調査資料		3.3.14 [追加] 環境配慮	4.4.12 [追加] 杭頭の処理等	● 浅層混合処理工法 適用範囲、仕様は意匠図による (既存手術棟風除室、既存手術棟キャノピー)
v 標準貫入試験		3.3.15 [追加] 環境配慮	4.4.13 [追加] 杭頭の処理等	○ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様は構造図による
w 孔内水平載荷試験		3.3.16 [追加] 環境配慮	4.4.14 [追加] 杭頭の処理等	○ 静的締め工法 適用範囲、仕様は構造図による
x PS検層		3.3.17 [追加] 環境配慮	4.4.15 [追加] 杭頭の処理等	○ 置換コンクリート工法 (ラップルコンクリート) 適用範囲は構造図による コンクリートの設計基準強度(N/mm ²) ○ 15 ○ 18 構造体強度補正値(S)(N/mm ²) ○ 0 ○ 0 ○ 3 スランプ(cm) ○ 15 ○ 18
y 常時微動測定		3.3.18 [追加] 環境配慮	4.4.16 [追加] 杭頭の処理等	4.7.5 [追加] 地盤改良など
z 一軸圧縮試験		3.3.19 [追加] 環境配慮	4.4.17 [追加] 杭頭の処理等	● 浅層混合処理工法 適用範囲、仕様は意匠図による (既存手術棟風除室、既存手術棟キャノピー)
aa 三軸圧縮試験		3.3.20 [追加] 環境配慮	4.4.18 [追加] 杭頭の処理等	○ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様は構造図による
bb 動的変形特性試験		3.3.21 [追加] 環境配慮	4.4.19 [追加] 杭頭の処理等	○ 静的締め工法 適用範囲、仕様は構造図による
cc 液状化の判定		3.3.22 [追加] 環境配慮	4.4.20 [追加] 杭頭の処理等	○ 置換コンクリート工法 (ラップルコンクリート) 適用範囲は構造図による コンクリートの設計基準強度(N/mm ²) ○ 15 ○ 18 構造体強度補正値(S)(N/mm ²) ○ 0 ○ 0 ○ 3 スランプ(cm) ○ 15 ○ 18
dd その他()		3.3.23 [追加] 環境配慮	4.4.21 [追加] 杭頭の処理等	4.7.6 [追加] 地盤改良など
ee 増築の有無		3.3.24 [追加] 環境配慮	4.4.22 [追加] 杭頭の処理等	● 浅層混合処理工法 適用範囲、仕様は意匠図による (既存手術棟風除室、既存手術棟キャノピー)
ff 地盤調査資料		3.3.25 [追加] 環境配慮	4.4.23 [追加] 杭頭の処理等	○ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様は構造図による
gg 標準貫入試験		3.3.26 [追加] 環境配慮	4.4.24 [追加] 杭頭の処理等	○ 静的締め工法 適用範囲、仕様は構造図による
hh 現場透水試験		3.3.27 [追加] 環境配慮	4.4.25 [追加] 杭頭の処理等	○ 置換コンクリート工法 (ラップル

5章 鉄筋工事				6章 コンクリート工事				8節 型枠			
2節 材料				1節 共通事項				6.8.1 一般事項 [追加]			
5.2.1 鉄筋				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				a 増打ち厚さ			
種類 記号 使用部位 呼び径(mm)				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				増打ち厚さは意匠図による他、下記による。			
● SD295A 主筋、帯筋、あら筋 ● D16以下 ● SD345 主筋 ● D19以上 ● SD390 主筋 ● D29以上 ○ SD490 主筋 ○				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				外部 ● 20mm ○ 25mm ○ mm 内部 ● 0mm ○ mm			
異形鉄筋 (JIS G 3112) ○ 785N/mm ² 級 梁貫通補強筋 ○ S16以下				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				下記の場合は、内部に増打ちを施す。 打ち放し、塗装仕上げなどあらわしとなる仕上げの部分 ● 10mm ○ mm 外壁面の内側 ● 10mm ○ mm テッキプレートのかかり代となる梁の側面 ○ 10mm ○ mm 耐久性上不利な箇所 ○ 10mm ○ mm			
建築基準法に基づき認定を受けたせん断補強筋				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				耐久性上不利な箇所の増打ちは、上記の数値に外側の増打ち厚さを加えたものとする。耐久性上不利な箇所の増打ちは、目地底にも適用する。			
5.2.2 溶接金網				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				b せき板の材料(○に該当するもの以外)			
種類と鉄線の形状 種類:レギュラー溶接金網 鉄線の形状:丸鉄線 網目の寸法(mm) ● 100 ○ 150 鉄線の径(mm) ● 6.0 ○ 4.5 合成スラブの配筋は構造図による				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				● コンクリート型枠用合板 日本農林規格による品質表示: ● B-C ○			
3節 加工及び組立				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				板厚: ● 12mm ○ mm 樹種: ● 複合合板 ○			
5.3.3 [追加] 組立				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				○ 金属製型枠パネル ○ 代替型枠() ○ 断熱材兼用型枠()			
a 繼手の工法(5.3.4(1))				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				c 施工打放し仕上げのせき板 ○ 金属製型枠パネル ○ コンクリート型枠用合板(日本農林規格による表面加工品) 厚さ: ○ 12mm ○ mm 木目、色あいなどの選別: ○ 要 ○ 不要 金属セベーラーはすべて切削し防錆処理を行う。 ○ その他()			
柱主筋 ○ 重ね継手(○ D16以下 ○) ● ガス圧接(● D19以上 ○) 梁主筋 ○ 重ね継手(○ D16以下 ○) ● ガス圧接(● D19以上 ○) 基礎スラブ、耐圧 ● 重ね継手(● D25以下 ○) ● ガス圧接(● D29以上 ○) スラブ、土圧壁等 ○ 重ね継手(○ ○) ○ ガス圧接(○ ○) 杭主筋 ○ 重ね継手(○ ○) ○ ガス圧接(○ ○) ○ 機械式継手(○ ○)				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				d せき板の再使用 せき板は支障のない限り再使用可能とするが、化粧打放し仕上げなど仕上げ面の品質に影響する場合の再使用は、コンクリート表面の仕上がりに支障がないものとし、監理者の承諾を受ける。			
SD490材の継手は、原則として機械式継手とする。				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				e スリーブによる材料、材種、規格等は、意匠図による。			
b 継手の位置及び長さ(5.3.4(2)(3)) ● 鉄筋コンクリート基準図による ○ 構造図による				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				f 支柱の存置期間 下記の場合の支柱の存置期間は、表6.8.3、かつ、28日以上とすること。 スパン: 9m以上のRC梁、スパン 14m以上のSRC梁 出の長さが2mを超える片持ち梁、1.5mを超える片持ちスラブ 短辺の長さが5m以上の床スラブ			
c 環り合の継手の位置(5.3.4(4)) ● 表5.3.3による ○ 構造図による(先組み工法で柱、梁の主筋を同一箇所に設ける場合等)				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				5.3.4 繼手及び定着			
d 定着(5.3.4(5)) ● 鉄筋コンクリート基準図による ● 構造図による				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				5.5.1 [追加] 一般事項			
a かぶり厚さ ● 表5.3.6による ○ 構造図による かぶり厚さは、増打ちなどの仕上げを除く構造躯体表面までの最短距離とする。ただし、増打ちが10mm以上ある場合は、耐久性上有効な仕上げとみなし、表5.3.6を適用する。誘発目地などにより最小断面となる部分のかぶり厚さは、目地底から算定する。その場合の表の適用は、「仕上げあり」の数値を適用する。 塗被を受けるおそれがある部分など耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは、6.8.1 a 増打ち厚さの耐久性上不利な箇所に示す増打ちの数値を、表5.3.6に加えた値とする。 軽量コンクリートで土に接する部分のかぶり厚さは、表5.3.6の値に10mmを加えた値とする。高炉セメントを用いる部分のかぶり厚さは、表5.3.6の値に10mmを加えた値とする。				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				5.5.2 工法			
b 継手の位置及び長さ(5.3.4(2)(3)) ● 鉄筋コンクリート基準図による ○ 構造図による				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				5.5.3 その他 [追加]			
c 環り合の継手の位置(5.3.4(4)) ● 表5.3.3による ○ 構造図による(先組み工法で柱、梁の主筋を同一箇所に設ける場合等)				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				5.6.1 [追加] 一般事項			
d 定着(5.3.4(5)) ● 鉄筋コンクリート基準図による ● 構造図による				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				5.6.2 工法			
5.3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 [追加]				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				5.7.1 [追加] 異形鉄筋スタッフ			
a かぶり厚さ ● 表5.3.6による ○ 構造図による かぶり厚さは、増打ちなどの仕上げを除く構造躯体表面までの最短距離とする。ただし、増打ちが10mm以上ある場合は、耐久性上有効な仕上げとみなし、表5.3.6を適用する。誘発目地などにより最小断面となる部分のかぶり厚さは、目地底から算定する。その場合の表の適用は、「仕上げあり」の数値を適用する。 塗被を受けるおそれがある部分など耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは、6.8.1 a 増打ち厚さの耐久性上不利な箇所に示す増打ちの数値を、表5.3.6に加えた値とする。 軽量コンクリートで土に接する部分のかぶり厚さは、表5.3.6の値に10mmを加えた値とする。高炉セメントを用いる部分のかぶり厚さは、表5.3.6の値に10mmを加えた値とする。				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				5.7.2 溶接継手			
b 溶接継手のあき()				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				5.7.3 その他 [追加]			
a 各部の配筋は構造図による。 構造図に記載の無いものは鉄筋コンクリート構造基準図による。				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				5.8.1 一般事項 [追加]			
b 基礎梁主筋の継手位置(鉄筋コンクリート基準図 3.4) ○ 3.4.aによる(基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合など) ● 3.4.bによる(基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合など) ○ 3.4.cによる(連続基礎及びべた基礎の場合など)				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧			
c 帯筋、あら筋組立の形(鉄筋コンクリート基準図 3.5 4.2 5.2) 帯筋 ● H形 ○ W形 ● SP形 ○ 丸形 ● 電気抵抗溶接鎖形(建築基準法に基づき認定を受けた帯筋) ただし、仕口部の帯筋は、SRC造ではW形、RC造ではH形とする。 あら筋 ● 鉄筋コンクリート基準図 5.2.2による。ただし、基礎梁は3.5による ● 電気抵抗溶接鎖形(建築基準法に基づき認定を受けたあら筋)				6.1.3 [追加] 使用コンクリート一覧				6.1.3 [追加] 使用コンクリートの種類及び品質			
[追加]				6.1.3 [追加] 使用コンクリートの種類及び品質				6.2.1 コンクリートの種類			
5.3.7 各部配筋				6.1.3 [追加] 使用コンクリートの種類及び品質				レディームクストコンクリートの種類は次による。 ● I類(JIS Q 1001及び1011に基づき、JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ○ II類(上記以外のJIS A 5308に適合したコンクリート) ○ 建築基準法第37条第二号に規定する大臣認定を受けたコンクリート コンクリートの気乾単位体積質量の種類および適用は、6.1.3 使用コンクリート一覧による。			
鉄筋コンクリート構造基準図 3.4				6.1.3 [追加] 使用コンクリートの種類及び品質				6.2.2 コンクリートの強度			
鉄筋コンクリート構造基準図 3.5 4.2 5.2				6.1.3 [追加] 使用コンクリートの種類及び品質				6.2.3 コンクリートの強度			
2019.10.01				6.1.3 [追加] 使用コンクリートの種類及び品質				6.2.4 ワーカビリティ及びスランプ			
				6.1.3 [追加] 使用コンクリートの種類及び品質				6.2.5 構造体コンクリートの仕上がり			
				6.1.3 [追加] 使用コンクリートの種類及び品質				6.3.1 コンクリートの材料			
				6.1.3 [追加] 使用コンクリートの種類及び品質				セメントの種類			

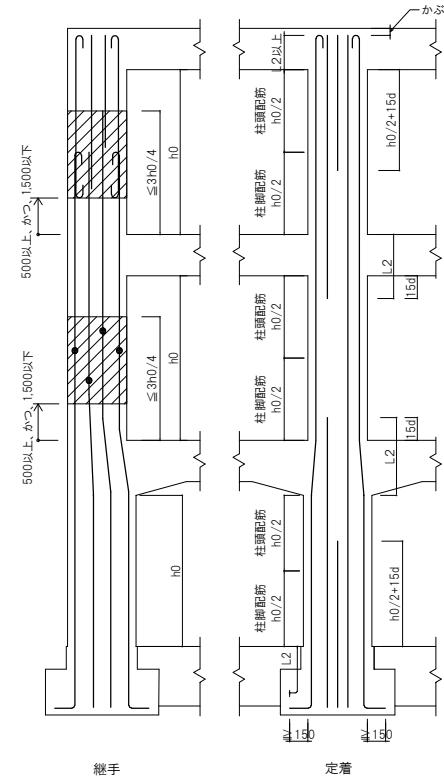
7章 鉄骨工事																																						
1節 共通事項																																						
7.1.3 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場 鉄骨製作工場の区分は下記とし、製作範囲は各グレードの適用範囲とする。 ○ 建築基準法施行規則第1条の3の規定に適合する国土交通大臣認定工場とし、 区分はHグレード以上とする。 ● 建築基準法施行規則第1条の3の規定に適合する国土交通大臣認定工場とし、 区分はMグレード以上とする。 製作範囲が各グレードの適用範囲を超える場合は、製作実績などを調査の上、監理者と協議すること。	7.2.9 [追加] 柱底均しモルタル 無収縮モルタルは、7.2.9(2)による。 技術評定を取得した露出固定柱脚の均しモルタルは、技術評定の仕様による。																																				
7.1.4 鉄骨製作工場における施工監理技術者	施工管理技術者 ● 配置する ○ 配置しない	3節 工作一般 7.3.2 工作図 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの間隔、ゲージなどは鉄骨基準図による。 孔径は、7.3.8(3)による。 7.3.8 ボルト孔 7.3.10 [追加] 仮組 ● 実施しない ○ 実施する 仮組を実施する場合の目的、範囲は下記による。 仮組方法、測定及び確認項目等を記載した仮組要領書を作成し、監理者の承諾を受ける。 目的 ○ タンクの測定 ○ 寸法精度、納まりの確認 ○ 部材の締め付け 範囲 構造図による																																				
2節 材料	使用鋼材一覧 鋼材はJIS規格品又は大臣認定品とし、証明書付きとする。 <table border="1"><tr><td>種類</td><td>規格</td><td>鋼材</td></tr><tr><td>形鋼・鋼板</td><td>JIS G 3101 ● SS400</td><td></td></tr><tr><td></td><td>JIS G 3106 ○ SM490A</td><td></td></tr><tr><td></td><td>JIS G 3136 ● SN400A,B ○ SN490B,C</td><td></td></tr><tr><td>大臣認定品</td><td>○ TMCP325B,C ○ TMCP355B,C ○ TMCP385B,C</td><td></td></tr><tr><td>角型鋼管</td><td>JIS G 3466 ○ STKR400</td><td></td></tr><tr><td>大臣認定品</td><td>○ BCP235 ● BCR295</td><td></td></tr><tr><td>钢管</td><td>JIS G 3444 ○ STK400</td><td></td></tr><tr><td></td><td>JIS G 3475 ○ STKN400B ○ STKN490B</td><td></td></tr><tr><td>大臣認定品</td><td>○ PB325B,C ○ PB355B,C ○ PB385B,C</td><td></td></tr><tr><td>軽量形鋼</td><td>JIS G 3350 ● SSC400</td><td></td></tr><tr><td>露出固定柱脚</td><td>認定品 ● 仕様は構造図による</td><td></td></tr></table>	種類	規格	鋼材	形鋼・鋼板	JIS G 3101 ● SS400			JIS G 3106 ○ SM490A			JIS G 3136 ● SN400A,B ○ SN490B,C		大臣認定品	○ TMCP325B,C ○ TMCP355B,C ○ TMCP385B,C		角型鋼管	JIS G 3466 ○ STKR400		大臣認定品	○ BCP235 ● BCR295		钢管	JIS G 3444 ○ STK400			JIS G 3475 ○ STKN400B ○ STKN490B		大臣認定品	○ PB325B,C ○ PB355B,C ○ PB385B,C		軽量形鋼	JIS G 3350 ● SSC400		露出固定柱脚	認定品 ● 仕様は構造図による		18.3.2 塗料種別 b 塗料種別 ● A種 : JIS K 5674 : 鉛クロムフリーさび止めペイント (1種[溶剤系]) ○ B種 : JIS K 5674 : 鉛クロムフリーさび止めペイント (2種[水系]) 18.3.3 鑄止め塗装塗り c 塗装回数 部位 工場 工事現場 一般部分(素地スリーブ内を含む) ○ 1回 ● 2回 ○ 1回 ○ 2回 工事現場接合部 ○ 1回 ● 2回 ○ 1回 ● 2回 工事現場建方後塗装できない部分 ○ 1回 ● 2回 塗装回数2回の場合は1回目と2回目の色を変える。 d 塗膜厚の検査 ● 要 ○ 不要 e 耐火被覆材が吹付け工法の場合は、下記の場合を除き、さび止め塗装を行わない。 施工中に鉄骨表面に生じる浮き錆が、近隣に飛散する恐れがある部分、または下層階の外装仕上げなどを汚損する恐れがある部分(外周部の架構および該当部分) 相対温度が70%を超える高湿度となることが予想される部分 吹付け工法を施す面の鑄止め塗装は、吹付けが行われる時点より、1ヶ月以上前に塗布し、完全塗膜が形成されることを確認すること。また、吹付け前にアクリル系のプライマー処理を施して付着力を増すこと。 f 耐火被覆材が張付け工法、巻付け工法など、吹付け工法以外の場合は、上記a~dの鑄止め塗装を適用する。
種類	規格	鋼材																																				
形鋼・鋼板	JIS G 3101 ● SS400																																					
	JIS G 3106 ○ SM490A																																					
	JIS G 3136 ● SN400A,B ○ SN490B,C																																					
大臣認定品	○ TMCP325B,C ○ TMCP355B,C ○ TMCP385B,C																																					
角型鋼管	JIS G 3466 ○ STKR400																																					
大臣認定品	○ BCP235 ● BCR295																																					
钢管	JIS G 3444 ○ STK400																																					
	JIS G 3475 ○ STKN400B ○ STKN490B																																					
大臣認定品	○ PB325B,C ○ PB355B,C ○ PB385B,C																																					
軽量形鋼	JIS G 3350 ● SSC400																																					
露出固定柱脚	認定品 ● 仕様は構造図による																																					
7.2.1 鋼材	電炉鋼材の取扱いについて a 490N/mm ² 級の電炉広幅平鋼を使用する場合は「490N/mm ² 級 建築構造用広幅平鋼 メーカー規格(普通鋼電炉工業会)に準拠すること。 b SN材の内、下記に示す特定の部位に電炉鋼材を使用する場合は、JIS規格や上記メーカー規格以外に、部位毎の追加仕様を満足すること(マルシートにて確認する)。また、メーカー選定にあたっては、この追加仕様を満足する材料供給が可能かどうか、工場の品質管理記録を提出し監理者の承諾を得ること。 板厚方向に引張を受ける部位に使用する場合(SN-C材) シャルピー吸収エネルギー最小値(0°C) VEo≥100J 板厚方向絞り RA≥25% 板厚 電炉厚板 t≤40mm 電炉広幅平鋼 t≤32mm 電炉形鋼は使用しない 板厚方向には引張を受けないが、梁端部、柱端部など塑性化を許容する部位に使用する場合(SN-B材) シャルピー吸収エネルギー平均値(0°C) VEo≥100J シャルピー吸収エネルギー最小値(0°C) VEo≥70J 板厚 電炉厚板 t≤40mm 電炉広幅平鋼・電炉形鋼 t≤32mm	6節 溶接接合 7.6.3 [読替] 溶接作業を行う技能資格者 溶接技能者技量付加試験 a AW溶接試験に準じて試験要領書を作成し、監理者の承諾後、監理者立会いのもとで試験を実施する。 b 試験結果の有効期限は原則として2年とする。ただし、工事現場溶接に従事する溶接技能者については、本工事期間のみとする。 c 本工事以外の技量付加試験結果などで鉄骨製作工場の実績を調査のうえ、監理者がその必要がないと認めた場合は、付加試験を省略することがある。 d 試験項目 ● 工場溶接(鋼製エンドタブ)技量試験 ● 工場溶接(代替エンドタブ)技量試験(固形タブ使用の場合) ○ 工事現場溶接(鋼製エンドタブ)技量試験 ○ II種(下向、横向) ● III種(下向、横向、立向) ○ 工事現場溶接(代替エンドタブ)技量試験(固形タブ使用の場合) ● 鋼管溶接技量試験 ● 建築鉄骨口ボルト溶接オペレーター資格試験(ロボット溶接使用の場合) ○ RT種(平板十字) ● RC種(角形鋼管) ○ RP種(円形鋼管)																																				
[追加]	7.6.4 溶接の準備 7.6.7 溶接施工 溶接施工に関する事項は下記による。 a エンドタブ ● 固形タブ ○ 鋼製エンドタブ ただし、現場溶接部、裏はつりを伴う溶接部、溶接線の末端部が見通せない部位については、鋼製エンドタブとする。 b 鋼製エンドタブの切除 ● する (適用箇所: ● 全て ○ 次の箇所を除く) ○ 配筋などで支障がない限りしない c 裏当て材 ● 裏当て金 ○ セラミック系裏当て材 (建築仕上げで見掛かりとなる部位の現場溶接部)	7.8.2 塗装の範囲 [追加] 9節 耐火被覆 7.9.2 耐火被覆の種類、材料、工法、性能及び適用箇所等は、意匠図による。 7.9.3 耐火塗装、耐火シートの場合は下記による。 下地塗装の素地ごしらえは、スイープラスト程度以上とする。 溶接ビード、仮設切断跡等は、グラインダー等により平滑にする。ただし、対象箇所については事前に監理者に確認すること。																																				
7.2.2 高力ボルト	ボルトの種類 ● トルシア形高力ボルト(S10T) ○ JIS形高力ボルト(F10T) ● 溶融亜鉛めっき高力ボルト(F8T相当) ● 六角ボルト、六角ナット	7.6.4 溶接の準備 7.6.7 溶接施工 溶接施工に関する事項は下記による。 a エンドタブ ● 固形タブ ○ 鋼製エンドタブ ただし、現場溶接部、裏はつりを伴う溶接部、溶接線の末端部が見通せない部位については、鋼製エンドタブとする。 b 鋼製エンドタブの切除 ● する (適用箇所: ● 全て ○ 次の箇所を除く) ○ 配筋などで支障がない限りしない c 裏当て材 ● 裏当て金 ○ セラミック系裏当て材 (建築仕上げで見掛かりとなる部位の現場溶接部)																																				
7.2.3 普通ボルト 7.2.4 アンカーボルト	ボルトの種類 構造用 : 建方以外のアンカーボルト 技術評定を取得した露出固定柱脚 取得了評定の仕様による 主要構造部及び間柱などの二次部材 JIS B 1220 構造用ねじアンカーボルトセット ● ABR40[転造ねじ] ○ ABM40[切削ねじ] ○ ABR40[転造ねじ] ○ ABM40[切削ねじ] 屋外に使用する場合は溶融亜鉛めっき(ABR)とする 仕上げ材などの取付部 JIS G 3138 建築構造用圧延棒鋼 SNR400 建方用 : 鉄骨建方のみを目的としたもの(適用は構造図による) JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材 SS400	7.6.11 [追加] 溶接部の試験を行う技能資格者 7.6.12 溶接部の試験 完全溶込み溶接部の受入検査は下記による。 a 試験の種類 ● 超音波探傷試験 ● 外観検査 ● 突合せ継手の食い違い仕口のずれ b 試験の規準は、日本建築学会「建築構造建築溶接部の超音波探傷検査規準」、「建築工事標準仕様書JASS6」、「鉄骨精度測定指針」及び鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。 c 工場溶接の検査率 ● 7.6.11の方法 AOQL ● 2.5% ○ 4.0% 検査水準 ○ 第4水準 ● 第6水準 ○ その他の方法 ○ 100% d 継手、仕口部のずれの検査率は、「検査・補強マニュアル」3.5.2による。 ○ 抜取り検査① ● 抜取り検査② e 工事現場溶接の検査率は100%とする。 f 抜取検査は、工場溶接部の品質が安定しており、工程平均不良率が十分小さいことを前提としている。この前提条件を満足しない可能性がある場合は、監理者と協議のうえ受入検査率を別途に定める。																																				
7.2.5 溶接材料	建築用ターンバックルプレース (JIS A 5540, JIS A 5541) 銅の種類 ● 割株式 ○ バイブ式 ボルトの種類 ● 羽子板ボルト ○ ねじボルト	7.7.8 デッキプレートの溶接 デッキプレートの形状は構造図による。																																				
7.2.6 ターンバックル	デッキプレート(JIS G 3352, 3302)の材料は次による。 a デッキプレート床 ○ SDP2G(Z12) ○ SDP2G(Z27) b 合成スラブ ○ SDP2G(Z12) ○ SDP2G(Z27) c 床型枠用 ○ SGCC (Z12) ○ SGCC (Z27) デッキプレート床、合成スラブの形状は構造図による。 床型枠用の形状は、構造図によるほか、施工上必要な形状とする。 外部に面する部位、軒裏などで温度が外気となる部位に使用する場合の溶融亜鉛めっきは、Z27とする。 デッキプレート床、合成スラブに必要な耐火時間は意匠図による。	7.8.2 塗装の範囲 [追加] 8節 鑄止め塗装 18.2.3 鉄鋼面の素地ごしらえ a 鉄面の素地ごしらえ ○ A種 ○ B種 ● C種																																				
7.2.7 [追加] 床構造用 デッキプレート	頭付きスタッド (JIS B 1198) 種類等は鉄骨基準図による	18.3.2 塗料種別 b 塗料種別 ● A種 : JIS K 5674 : 鉛クロムフリーさび止めペイント (1種[溶剤系]) ○ B種 : JIS K 5674 : 鉛クロムフリーさび止めペイント (2種[水系]) 18.3.3 鑄止め塗装塗り c 塗装回数 部位 工場 工事現場 一般部分(素地スリーブ内を含む) ○ 1回 ● 2回 ○ 1回 ○ 2回 工事現場接合部 ○ 1回 ● 2回 ○ 1回 ● 2回 工事現場建方後塗装できない部分 ○ 1回 ● 2回 塗装回数2回の場合は1回目と2回目の色を変える。 d 塗膜厚の検査 ● 要 ○ 不要 e 耐火被覆材が吹付け工法の場合は、下記の場合を除き、さび止め塗装を行わない。 施工中に鉄骨表面に生じる浮き錆が、近隣に飛散する恐れがある部分、または下層階の外装仕上げなどを汚損する恐れがある部分(外周部の架構および該当部分) 相対温度が70%を超える高湿度となることが予想される部分 吹付け工法を施す面の鑄止め塗装は、吹付けが行われる時点より、1ヶ月以上前に塗布し、完全塗膜が形成されることを確認すること。また、吹付け前にアクリル系のプライマー処理を施して付着力を増すこと。 f 耐火被覆材が張付け工法、巻付け工法など、吹付け工法以外の場合は、上記a~dの鑄止め塗装を適用する。																																				
7.2.8 スタッド	2019.10.01	7.13.2 [追加] 溶接施工試験 ○ 溶接施工試験 引張り強度490N/mm ² を超える規格の鋼材を使用する場合は、溶接施工試験を実施する。 施工者は、鉄骨製作に先立ち、製作工場の実績、管理体制及び過去の試験結果の有無などを調査すること。 施工者は、試験計画書を作成し、監理者の承諾後、監理者立会いのもとで試験を実施する。 ただし、製作工場に十分な実績、管理体制能力があり、かつ、施工試験の結果などがある場合は、協議により施工試験を免除できる。 付属鉄骨など エレベーターのレール受け及び中間ビームなどは意匠図による。 PC版など乾式仕上げ材の取付けファスターは意匠図による。 設備架台、配管受けなどは意匠図による。 その他他の乾式仕上げ材などの下地鉄骨は意匠図による。 梁の外壁貫通部のふさぎフレームは意匠図による。 付属鉄骨など本体鉄骨の取付け 仕上げ部材を取付けるためのビース、仮設部材などは工場取付けを原則とする。 現場取付けとする場合は、捨てプレートを工場にて取付けるか、鉄骨工事の現場溶接技能者により取付けすること。 内外装材などの仕上げ材取付け部について、下地鉄骨、ファスターなどは工具納まりの不具合、ねじれ、垂れなど施工上、精度の不具合が生じないことを運営なく確認し、監理者に報告すること。																																				

鉄筋コンクリート構造基準図－2

4 柱の配筋

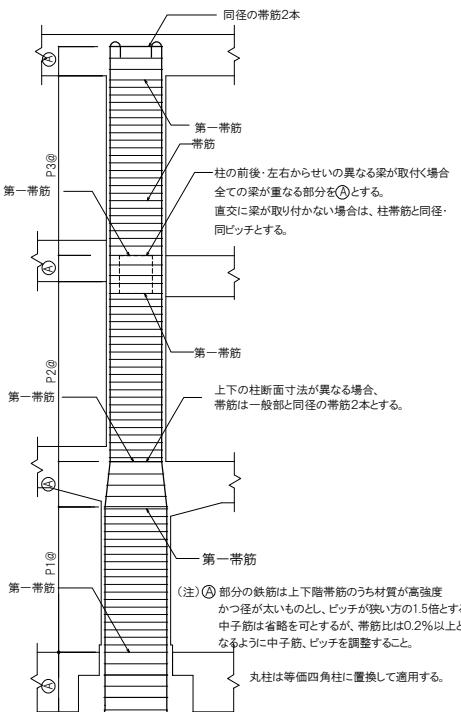
4.1 柱主筋

- 1) 継手、定着及び余長は下記による。
- 2) 斜線は重ね継手・ガス圧接継手・機械式継手の継手位置の範囲を示す。
- 3) 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
- 4) 継手、定着は、全ての階に通用する。
- 5) 最上階で、4.3(1)bの場合に限り、図示の位置に定着を設けて良い。



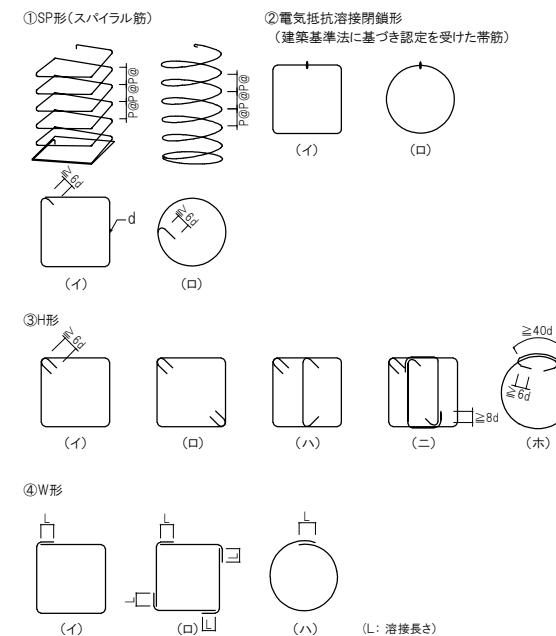
4.2 帯筋

- 1) 帯筋の割付けは、下記による。
P1@P2@P3@は、特記された帯筋の間隔を示す。



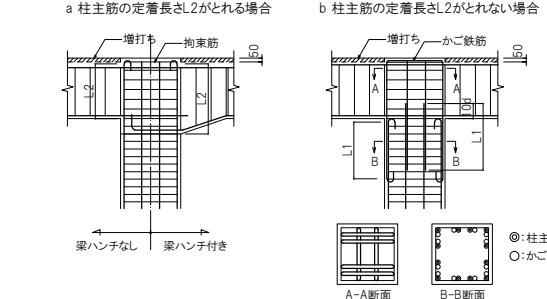
2) 帯筋組立の形は、下記による。

- 1) SP形を標準とし、SP形にできない場合は監理者と協議の上、電気抵抗溶接閉鎖形とする。仕口部はH形を標準とする。
- 2) SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5倍以上の巻きを行う。
- 3) SP形、電気抵抗溶接閉鎖形、W形の中子筋の形状は、H形による。
- 4) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W形とする。
- 5) 溶接長さは、両面フレア溶接の場合5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、ビートの始点及び終点としてそれぞれ2dを加える。
- 6) フック及び継手の位置は上下で連続しないように配置する。



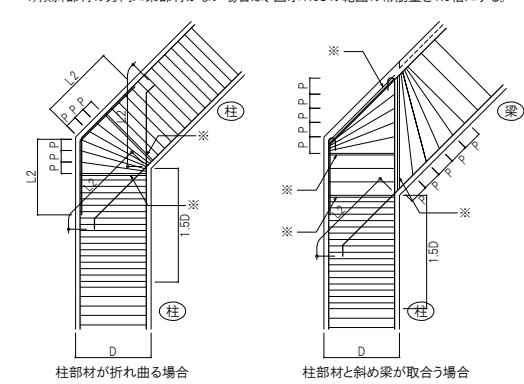
4.3 その他の配筋

(1) 柱頭の配筋

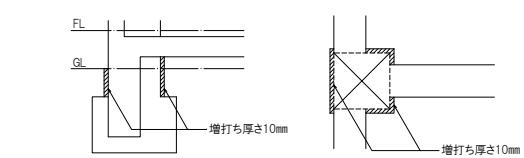


(3) 斜め柱: 斜め梁の配筋

- 1) 図示の鉄筋は該当部材の帯筋又はあばら筋を2組束ねて配筋する。
- 2) 図中のPは、該当部材の帯筋又はあばら筋の所定の寸法を示す。
- 3) 扇形のつまむ側の鉄筋は、所定の最小間隔を確保する。
- 4) 傾斜部材の方向に梁部材がない場合は、図示1.5Dの範囲の帯筋量を1.5倍にする。

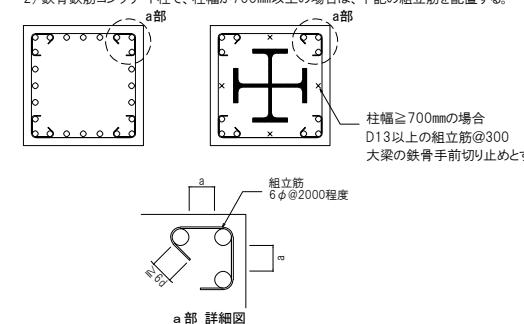


(4) 土に接する柱周辺の増打ち



(5) 組立筋

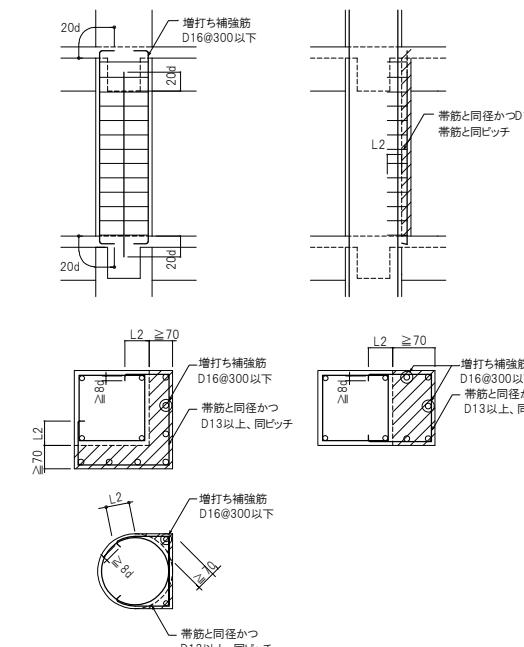
- 1) 柱リストに二段筋の表示がある場合の組立筋は、下記による。
- 2) 鉄骨鉄筋コンクリート柱で、柱幅が700mm以上の場合は、下記の組立筋を配置する。



a (鉄筋のあき) : 特記無き限り、呼び名の数値の1.5倍かつ、粗骨材最大寸法の1.25倍かつ、25mmの最大値。

(6) 柱増打ち補強筋

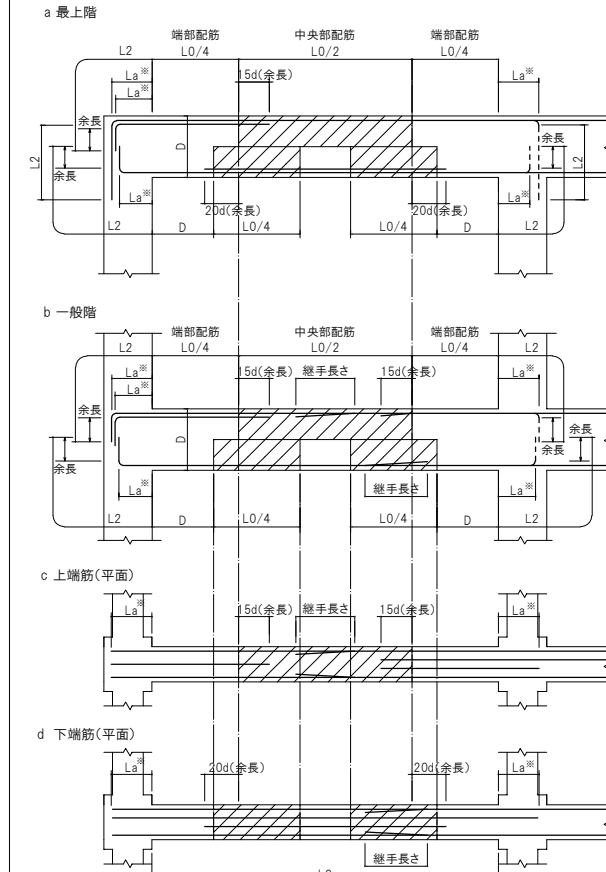
- 1) 柱のかぶり厚さを確保すること。
- 2) 梁天端は、柱頭より50mm下げる。
- 3) 拘束筋は柱帶筋と同径2本とする。
- 4) かご鉄筋は柱主筋と同径、同本数とする。



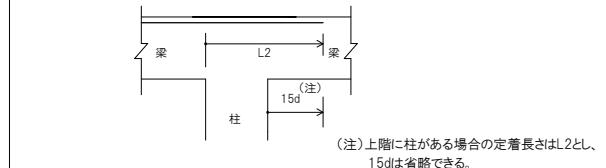
5 大梁の配筋

5.1 大梁主筋

- 1) 継手、定着及び余長は下記による。
- 2) 斜線は重ね継手・ガス圧接・機械式継手の継手位置の範囲を示す。
- 3) 印は、継手及び余長を示す。
- 4) 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 5) 帯主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁を除く)には、フックを付ける。
- 6) 下端主筋の定着は、曲上げ定着とするが、やむを得ない場合は監理者と協議の上、曲下げ定着とすることができる。
- 7) 帯主筋は、柱をまじて引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、監理者と協議の上、下記eによる。

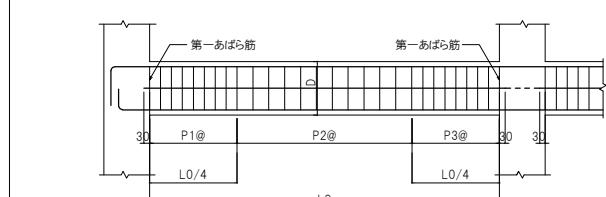


e 梁主筋をやむを得ず梁内に定着する場合の配筋



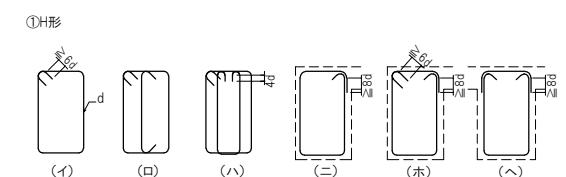
5.2 あばら筋

- 1) あばら筋の割付けは、下記による。
P1@、P2@、P3@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。



2) あばら筋組立の形は、下記による。

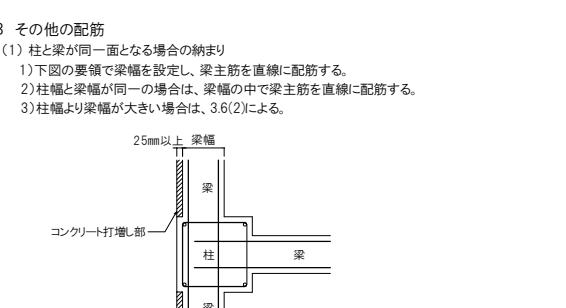
- H形の(イ)～(ハ)を標準とし、片側スラブ付き梁の場合は、(ニ)又は(ホ)、両側スラブ付き梁の場合は、(二)～(ヘ)とすることができる。
- フックの位置は、(イ)～(ハ)の場合は交差とし、(ニ)の場合は、片側スラブ付き梁ではスラブの付く側、両側スラブ付き梁では交差とする。なお、(ホ)の場合はスラブの付く側を90°折曲げとする。
- H形にできない場合は、W形とすることができる。
- 溶接長さは、4.2 带筋による。
- H形の(イ)以外の中子筋の形状は、H形の(ロ)、(ハ)による。



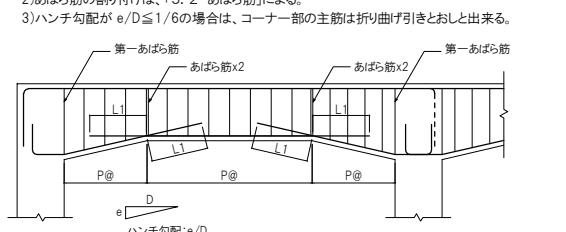
- 4) 腹筋及び幅止め筋、二段受け筋など
・ 腹筋の割付けは、特記なき限り下記を標準とする。
・ 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mmとし、定着長さは30mmとする。
ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ及び定着長さは、特記による。

梁せい	腹筋
D < 600	不要
600 ≤ D < 900	2-D10(1段)
900 ≤ D < 1200	4-D10(2段)
1200 ≤ D < 1500	6-D10(3段)
1500 ≤ D <	2-D13@450以下

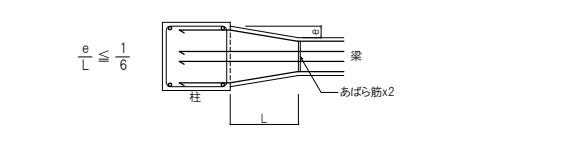
- 注) SRC造の場合、幅止め筋は省略してもよい。



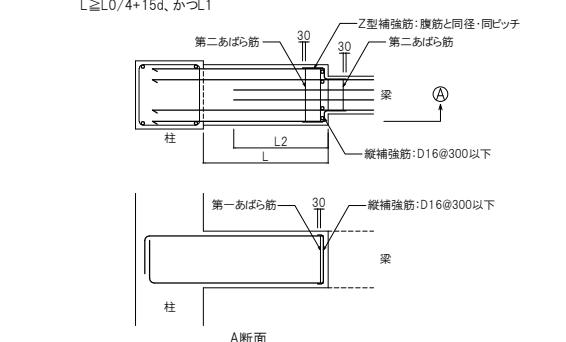
- (2) 鉛直ハンチの配筋
1) 梁主筋の継手、定着及び余長は、「5.1 大梁主筋」による。
2) あばら筋の割付けは、「5.2 あばら筋」による。
3) ハンチ勾配が e/D ≤ 1/6 の場合は、コーナー部の主筋は折り曲げ引きとしと出来る。



- (3) 水平ハンチの配筋

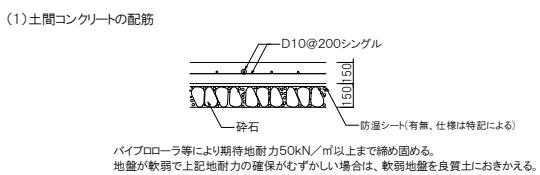


- (4) ドロップハンチの配筋

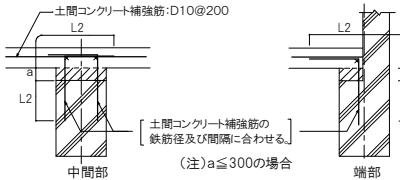


鉄筋コンクリート構造基準図－5

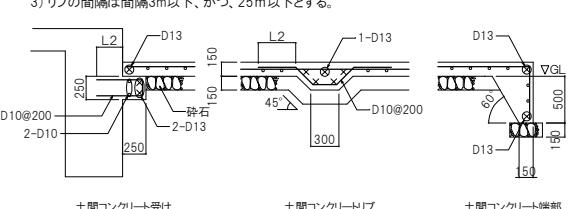
8.4 土間コンクリート
土間コンクリートとは、土に接するスラブで、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるもの。土間コンクリートの配筋



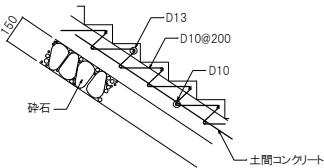
(2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部の配筋



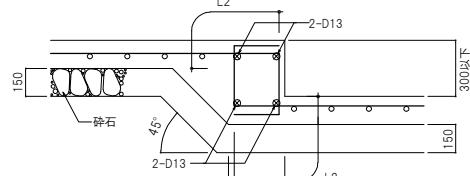
(3) 土間コンクリート受け・土間コンクリートリブの配筋
1) 土間コンクリートには、間隔3m以下、かつ、25m以下となるようにひび割れ誘発目地を設ける。
2) 目地を設けない場合は、リブを設ける。
3) リブの間隔は間隔3m以下、かつ、25m以下とする。



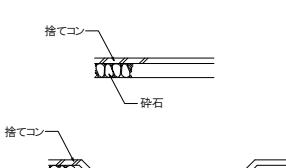
(4) 土間コンクリート階段の配筋



(5) 土間コンクリート段差部の配筋

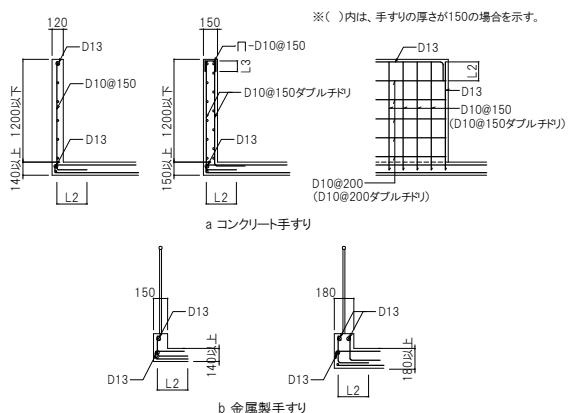


(6) 梁・柱・壁の接合部の配筋
1) 梁・柱・壁の接合部の配筋
2) ビットの大きさは意匠図参照。
3) 地盤の状況により碎石を省略することができる。

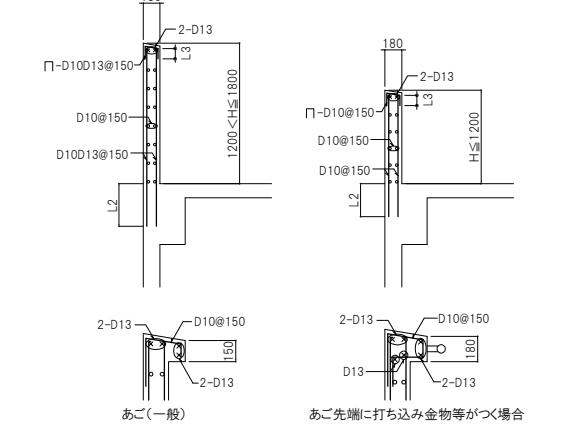


9 その他各部の配筋

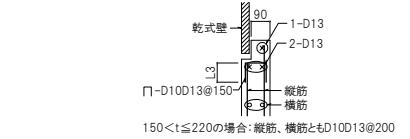
9.1 手すりの配筋



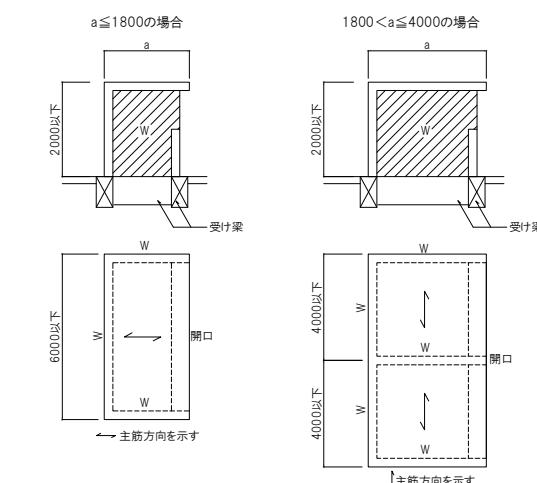
9.2 バラベットの配筋



9.3 乾式壁受け立上り



9.4 ハト小屋の配筋

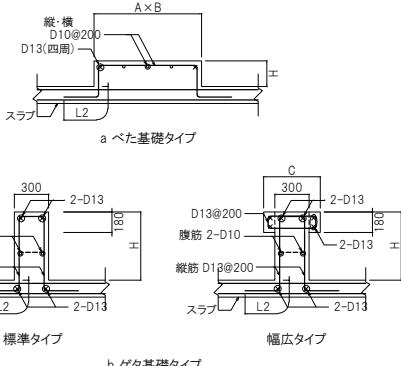


壁(W)	厚さ	縦筋	横筋
180	D10D13@150ダブル	D10D13@150ダブル	

※多雪地域など、荷重条件が異なる場合の配筋などは特記による。

9.5 機械基礎の配筋

- (1) スラブから立上げる基礎の場合
A×B、CおよびHは意匠図による。
- (2) あご付きとする場合は、9.2 ハラベットの配筋に準じる。
- (3) 機械基礎を梁形状とする場合は、構造図による。



10.1 コンクリートブロック帳壁の標準配筋

10 コンクリートブロック帳壁の配筋

- (1) ブロック積みの最大高さ
ブロック積みの最大高さは下表によるものとし、この値を超える場合には上部または下部に同じ厚さのRC壁を設ける。

ブロック壁の厚さ	最大ブロック積みの高さ
120	3000
150	3500
190	3500

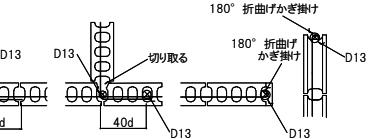
10.2 標準配筋リスト

主筋	配筋
一般帳壁	D10@400
小壁帳壁	D13@400

10.3 鉄筋の継手および定着

- 1) ブロック帳壁の鉄筋は定着あるいはその他の方法により構造主体に緊結する。
- 2) 主筋および開口線の補強筋には重ね継手を用いない。
- 3) 配筋に使用する異形鉄筋の重ね継手長さは40d(フック付では30d)以上とする。
- 4) 構筋を挿入する箇所では構筋用ロックを使用し、継筋と鉄線で結束する。
- 5) 空洞部に充填するモルタルの鉄筋に対するかぶり厚さは20mm以上とする。

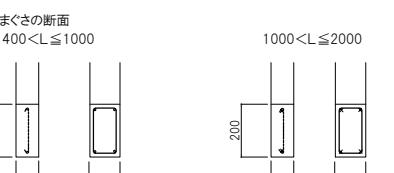
10.4 交差部、端部および開口部の配筋



10.5 まぐさ(RC造)の配筋

既製まぐさを使用する場合は、監理者の承諾を受ける。

10.6 一般の場合

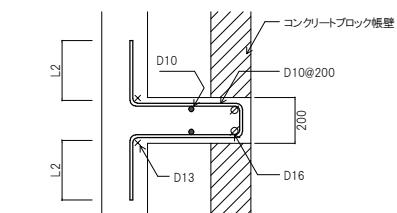


主筋上下共 1-D10 2-D10
主筋上下共 1-D13 2-D13
スターラップ D10@150 D10@150
注) 1. まぐさの幅はブロック厚さと同じとする。

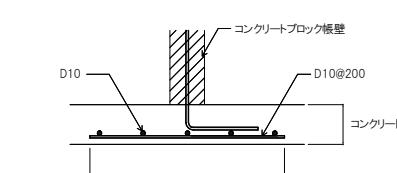
10.7 コンクリートブロック帳壁との取合い

(1) 控壁の配筋

擁壁の配筋(水平、垂直とも)は下記による。



(2) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下記による。



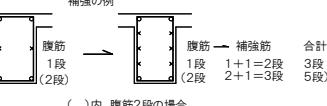
11 打継ぎ部及び増築予定部の補強

(1) 打継ぎ部の補強

- 24時間以上経過し、標準6.6.3(a)の位置でコンクリートを打継ぐ場合は、打継ぎ部に下記の補強を行う。
- 打継ぎ補強筋は、打継ぎ面を境に両側 L2以上定着させる。

(2) 梁の場合

打継ぎ補強筋は、下端主筋と同径、同ピッチとし、下端主筋の間に配筋する。



(3) 床スラブの場合

打継ぎ補強筋は、下端主筋と同径、同ピッチとし、下端主筋の間に配筋する。

(4) 柱、壁の場合

補強筋は不要とする。

梁、床スラブの場合で、標準6.6.3(a)の位置以外で打継ぐ場合は、補強方法について構造検討書を提出し監理者の承諾を受ける。

(2) 増築予定部の補強

増築予定部の打継ぎ補強は、特記による。特記のない場合は、(1)打継ぎ部の補強に準じ下記による。

1) 梁の場合

(1) に示す打継ぎ補強筋D13をD16に読み替える。

2) 床スラブの場合

打継ぎ補強筋は、上下ともスラブ筋と同径、同ピッチとし、上下スラブ筋の間に配筋する。

3) 鉄筋の防錆処置及び保護

は特記による。

溶接開先基準図 (CO₂ : ガスシールドアーク半自動溶接、アーク手溶接 SAW : サブマージアーク自動溶接)

完全溶込み溶接T継手

T1 CO ₂	B1 CO ₂	L1 SAW (突合せ溶接)	CX CO ₂	P1 CO ₂	F1 CO ₂ SAW
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------

完全溶込み溶接平継手

4面BOX材

完全溶込み溶接 (現場溶接)

部分溶込み溶接

隅肉溶接

ノンスカラップ工法のディテール

①同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合

②同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合

③先組溶接組立てH形断面梁、外のり一定H形断面および圧延H形鋼梁の場合

裏当て金、エンドタブの組立溶接

溶接に関する注意事項

高力ボルトのマーク・配列

柱まわりおよび梁継手部のデッキプレート受け

デッキプレート受け基準図 (フラットタイプ、合成スラブタイプ共通)

スラブ端部の納まり (フラットタイプ、合成スラブタイプ共通)

スタッドボルト

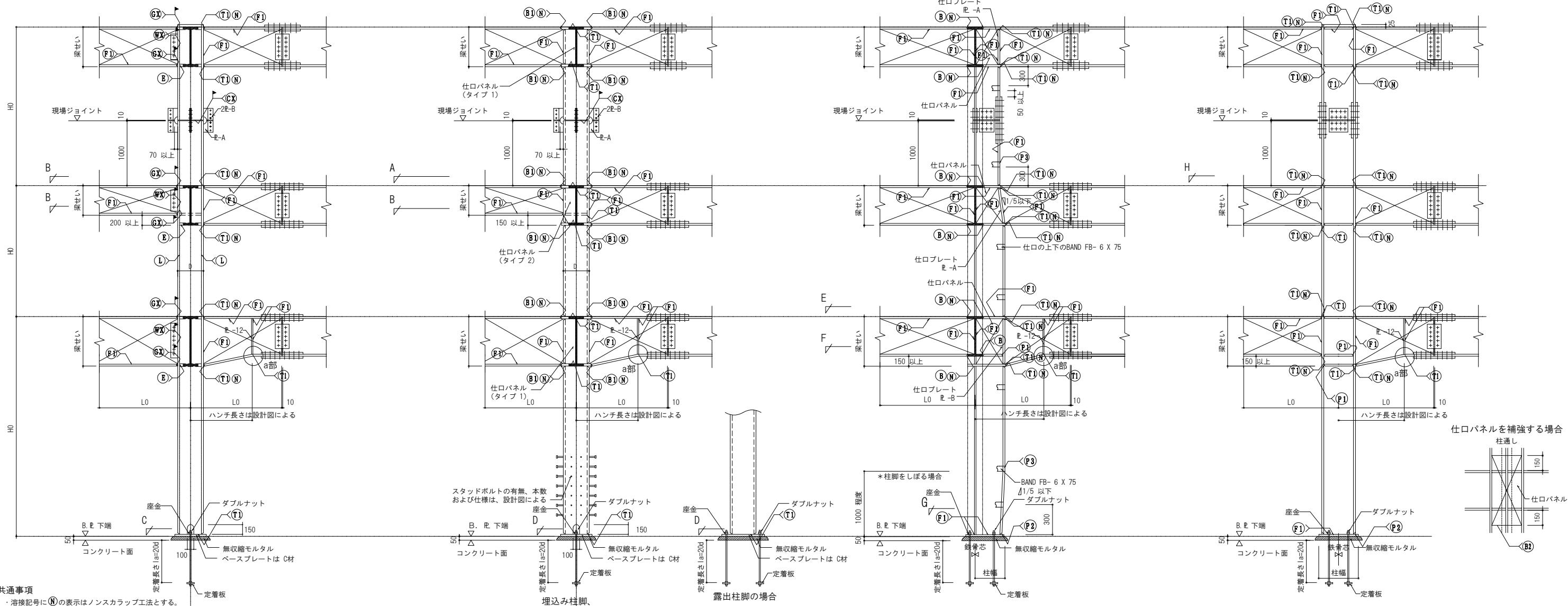
鉄筋貫通孔

四面ボックス

角形鋼管・鋼管(通しダイアフラム形式)

SRC造(梁フランジ貫通形式)[T字形、十字形柱など]

SRC造(柱フランジ貫通形式)[一方H形柱など]



共通事項

- 溶接記号に(R)の表示はノンスカラップ工法とする。
- L0は鉄骨梁ジョイント長さ、H0は鉄骨柱高さを示す。
- 基準図は凡例であり、詳細はリスト、詳細図などによる。

四面ボックス、角型鋼管、鋼管部材

通しダイアフラム
通しダイアフラムの材質・板厚
・材質は、取り付く柱、梁フランジのうち高強度のものと同等以上、かつ、C材とする。
・板厚は、取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズ以上かつ、柱スキンプレート厚以上とする。

内ダイアフラム
内ダイアフラムの材質・板厚
内ダイアフラムの材質・板厚
・材質は、取り付く柱、梁フランジのうち高強度のものと同等以上とする。
・板厚は、上下柱以上とする。

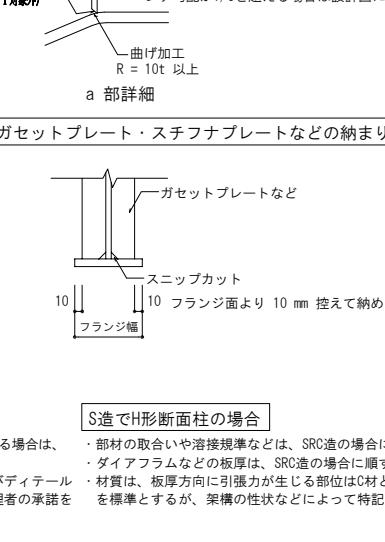
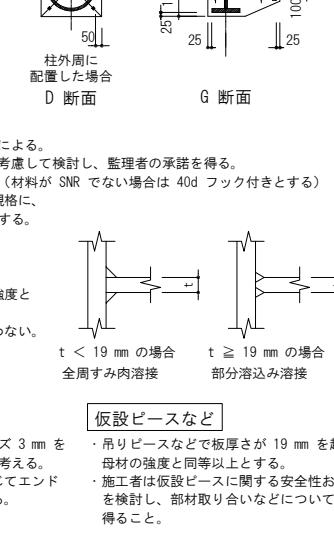
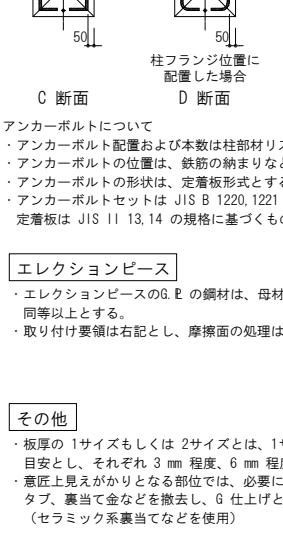
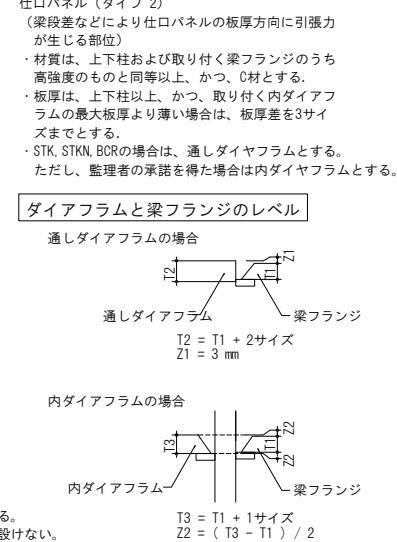
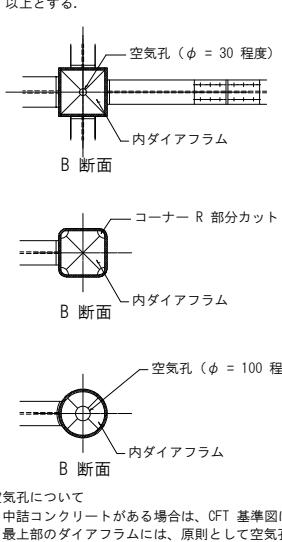
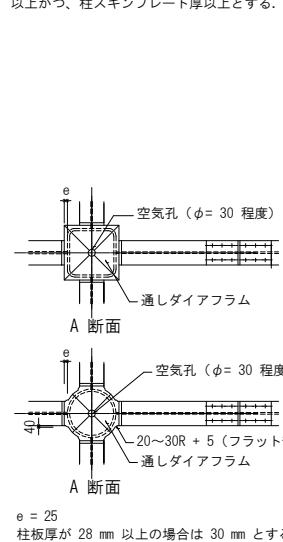
仕口パネル
仕口パネル(タイプ1)
・材質は、上下柱のうち高強度のものと同等以上、かつ、板厚は、上下柱以上とする。
仕口パネル(タイプ2)
(梁段差などにより仕口パネルの板厚方向に引張力が生じる部位)
・材質は、上下柱および取り付く梁フランジのうち高強度のものと同等以上、かつ、C材とする。
・板厚は、上下柱以上、かつ、取り付く内ダイアフラムの最大板厚より薄い場合は、板厚差を3サイズまでとする。
・STK、STKN、BDRの場合は、通しダイヤフラムとする。
ただし、監理者の承諾を得た場合は内ダイヤフラムとする。

柱脚部
柱脚部
柱フランジ位置に配置した場合
C断面
D断面
G断面
柱外周に配置した場合
D断面
G断面
ハンチ部(板曲げ部)
Rib P_{lt}=12 (ハンチ勾配1/6以下)
ハンチ勾配が1/6を超える場合は設計図による。
曲げ加工 R=10t 以上
a部詳細
ガセットプレート・スチナプレートなどの納まり
ガセットプレートなど
スニップカット
10 フランジ幅
t < 19 mm の場合
全周すみ肉溶接
t ≥ 19 mm の場合
部分溶込み溶接
その他
・板厚の1サイズもしくは2サイズとは、1サイズ3mmを目安とし、それぞれ3mm程度、6mm程度と考える。
・意匠上見えがかりとなる部位では、必要に応じてエンドカット、裏当て金などを撤去し、G仕上げとする。
(セラミック系裏当てなどを使用)

梁フランジと梁フランジのレベル
通しダイアフラムの場合
B断面
内ダイアフラム
空気孔(Φ=100程度)
T2=T1+2サイズ
Z1=3mm
内ダイアフラムの場合
B断面
内ダイアフラム
空気孔(Φ=100程度)
T3=T1+1サイズ
Z2=(T3-T1)/2

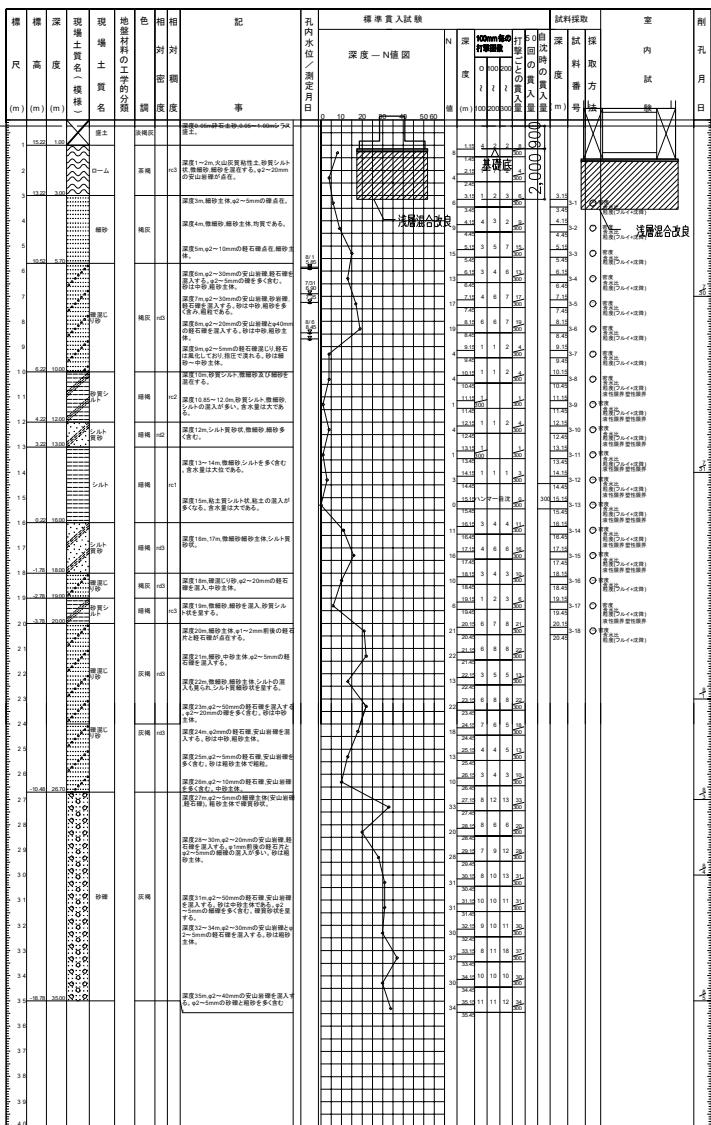
SRC部材
仕口パネル
・材質は、取り付く柱、梁のうち高強度のものと同等以上とする。
・板厚は、上下柱のうち高強度のものと同等以上、かつ、9mm以上、または、特記による。
・完全溶込み溶接で取り付くスチナ_Rより仕口パネルが薄い場合は、板厚差を2サイズまでとする。
仕口部の柱フランジ
仕口プレートR-Aの材質・板厚
・材質は、上下柱のうち高強度のものと同等以上、かつ、板厚は、上下柱以上とする。
仕口プレートR-Bの材質・板厚
(梁段差などにより仕口部の板厚方向に引張力が生じる部位)
・材質は、上下柱および取り付く梁フランジのうち高強度のものと同等以上とする。
・板厚は、上下柱以上、かつ、取り付く梁フランジの最大板厚より薄い場合は、板厚差を2サイズまでとする。
梁フランジ・ダイアフラム
仕口部の梁フランジ(貫通部)・通しダイアフラムの材質・板厚
・材質は柱、梁フランジのうち高強度のものと同等以上かつC材とする。F断面(段差部のフランジ)
・ブラケットのフランジと通し材にする場合は、取り付く梁フランジの最大板厚以上としないこと。
・ダイアフラム形状とする場合は、取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズ以上かつ柱板厚以上とする。
仕口部の梁フランジ(段差部)・内ダイアフラムの材質・板厚
・材質は柱、梁フランジのうち高強度のものと同等以上、かつ、梁フランジ最大板厚の1サイズ以上とする。
ダイアフラムと梁フランジのレベルはBOX材の場合に倣う。
その他
記載外のBANDプレート(タラップを含む)などを取り付ける場合は、監理者の承諾を受ける。

※印の(P)は、Web板厚が12mm以下の場合は(F)とする。

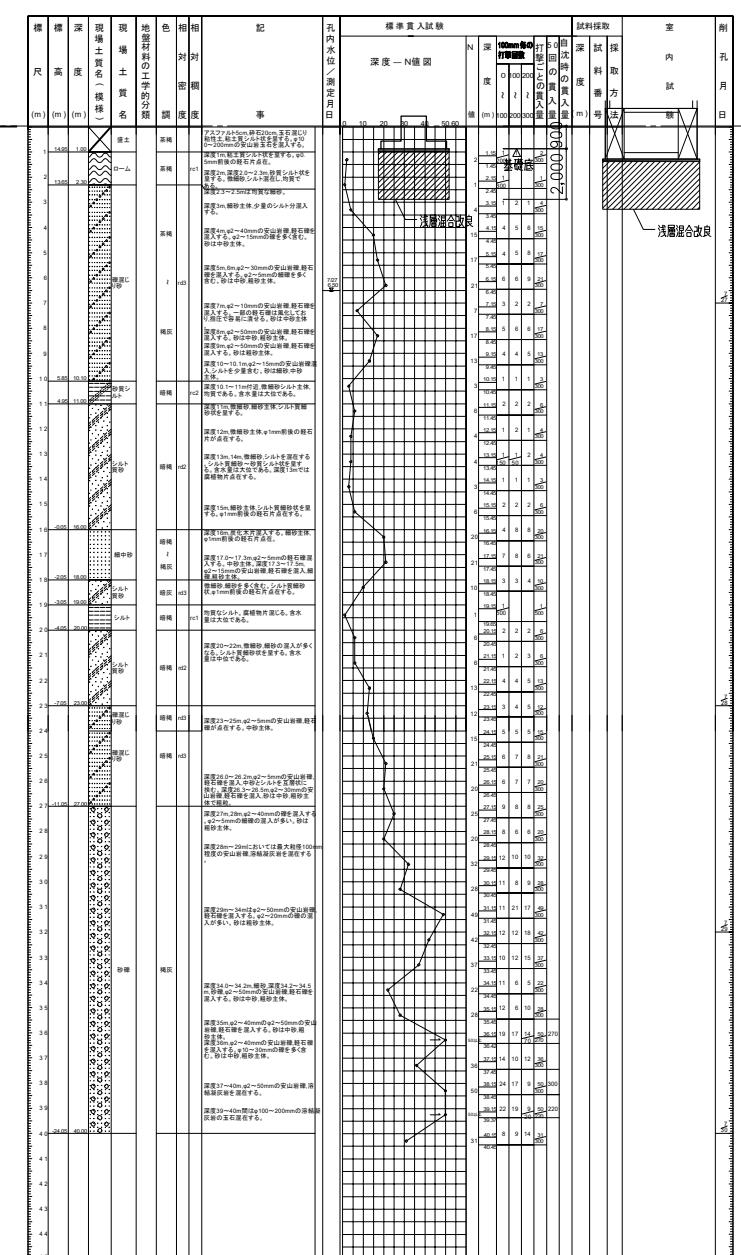


ボーリング名 No.3 (孔口標高=T.P.+16.22m)

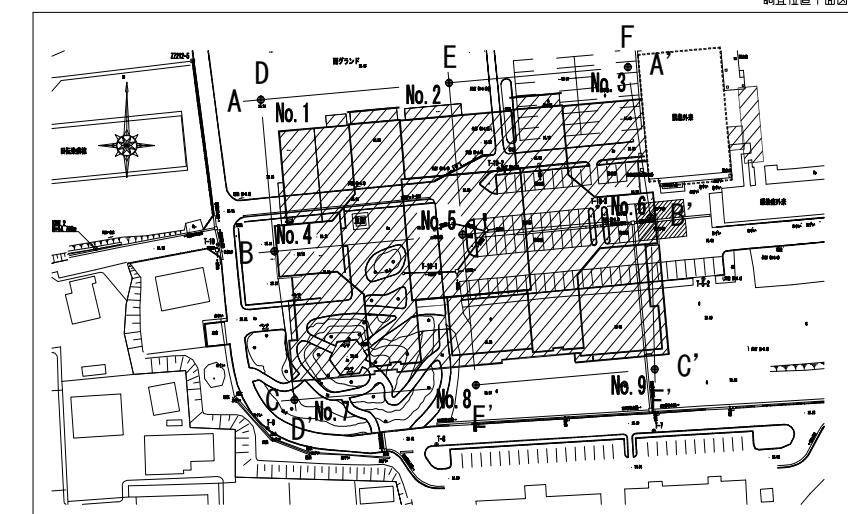
(T.P.+15.98)
設計GL
-40

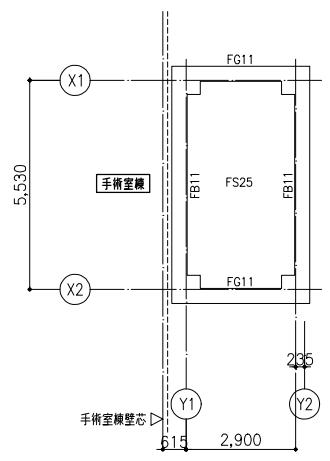


ボーリング名 No.6 (孔口標高=T.P.+15.95m)



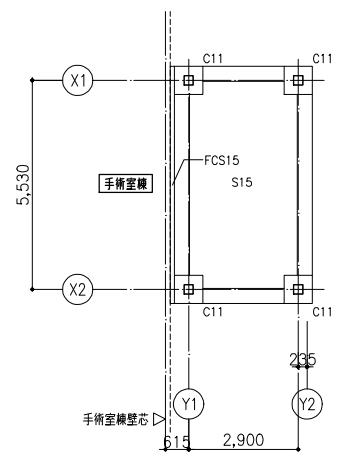
調査位置平面図





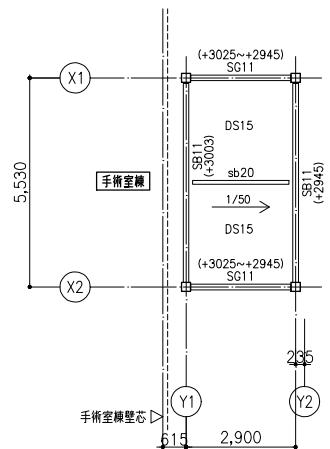
基礎底図 1:100

共通事項
特記なき限り下記による。
1. 基礎底レベルは、設計GL-1,300とする
2. 深層混合改良(厚さ2.0m、ヒント添加量100kg/m³)
により、長期計容支持力は50kN/m²とする。
3. 支持層はローム層とする。



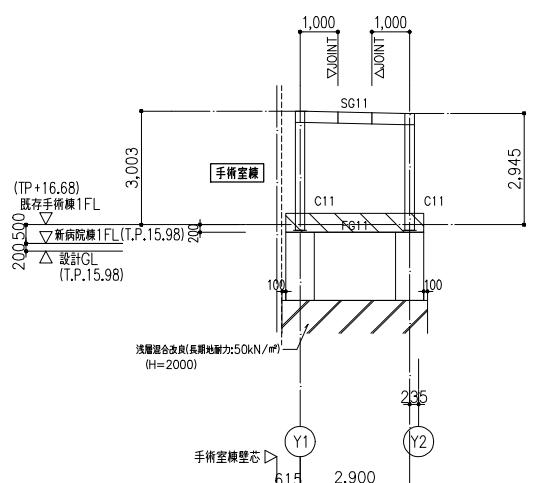
1階床底図 1:100

共通事項
特記なき限り下記による。
1. 鉄骨柱BPL下端レベルは、設計GL+550とする
2. 基礎天端レベルは、設計GL+500とする
3. スラブレベルは、設計GL+690とする

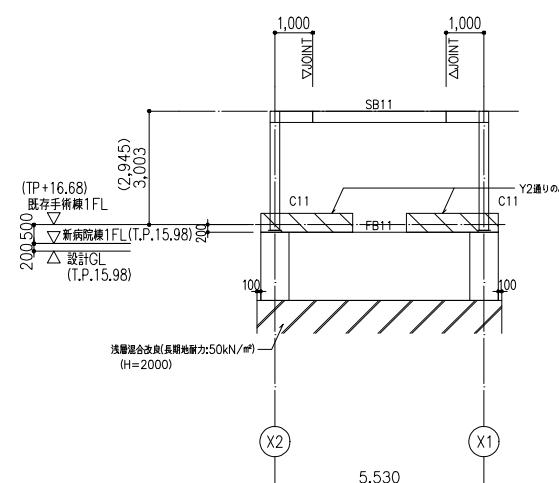


屋根底図 1:100

共通事項
特記なき限り下記による。
1. ()内数値は既存手術棟1FLからの鉄骨梁天端レベルを示す。

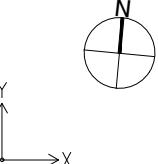


X1・X2通り軸組図 1:100



Y1・Y2通り軸組図 1:100

共通事項
特記なき限り下記による。
1. ()内数値はY2通りの梁天端を示す
2. □は外周壁W18(H=既存手術棟1FL+300)を示す。



基礎梁断面リスト 1:40
共通事項： 傾止め筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準図参照

符号	FB11,FG11
位置	全断面
断面	
上諸筋	5-D19
下諸筋	3-D19
スチーラップ	2-D13 @200
備考	

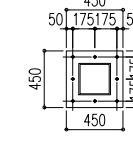
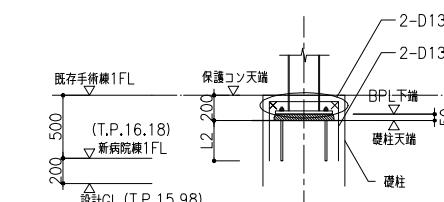
スラブリスト 共通事項： 地盤は捨てコン!50,碎石t=60とする。

符 号	厚 さ	位 置	短 边 方 向	長 边 方 向	備 考
DS15	t=150	上	D10・D13@200	D10@200	*フットデッキ t=1.2 h=100
		下	D10@200	D10@200	
S15	t=150	上	D10・D13@200	D10@200	
		下	D10@200	D10@200	
FS25	t=250	上	D13・D16@150	D13@150	
		下	D16@150	D13@150	
FCS15	t=150	上	D10・D13@200	D10@200	
		下	D10@200	D10@200	

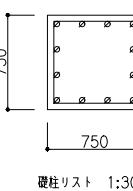
鉄骨部材リスト 共通事項： 鋼材：屋外に露出する部材は、溶融亜鉛めっきとする。
： 接合部は溶接とする。

符 号	部 材	材 質	備 考
C11	全断面	□-250x250x9	BCR295
SB11,SG11	全断面	H-300x150x6.5x9	剛接合 フランジ：SPL1-9,SPL2-9 ウェブ：HTB 2x2-M20 sb20
sb20	全断面	H-200x100x5.5x8	SS400 GPL-9 , H.T.B 1x2-M20

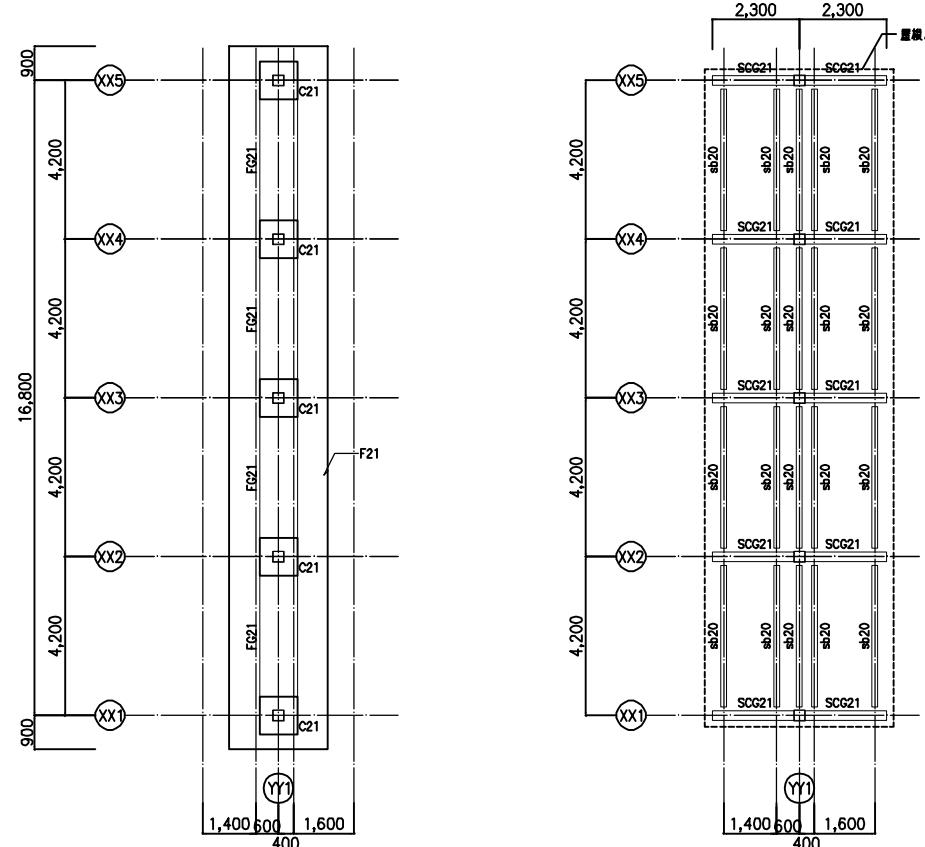
柱脚保護コンクリート配筋詳細図



C11柱脚 1:30
BR -25x450x450(SN490B),無収縮モルタル=t50
A.BOLT 8-M16(ABR400),L=320
ダブルナット締め



柱リスト 1:30
主筋:12-D16
フープ:D13@100



共通事項 基礎伏図 1 : 100

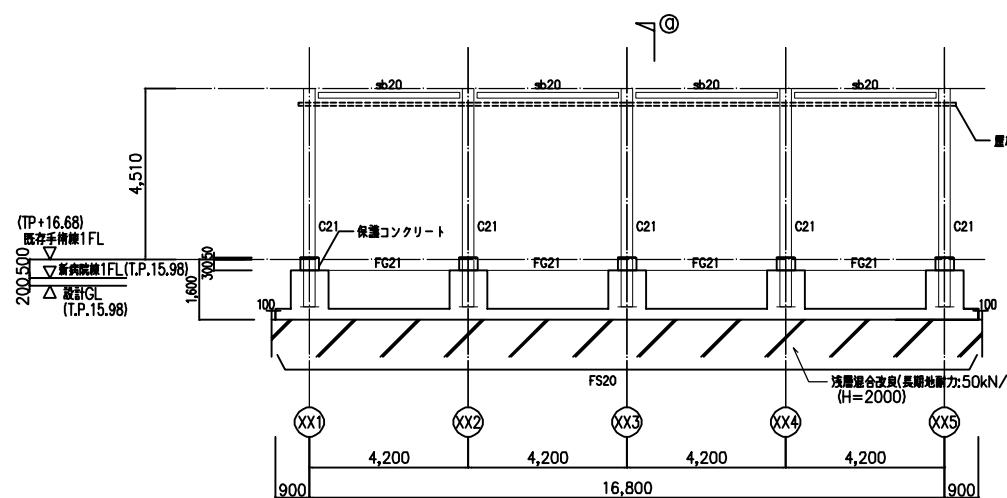
天道事項

特記なき限り下記による。

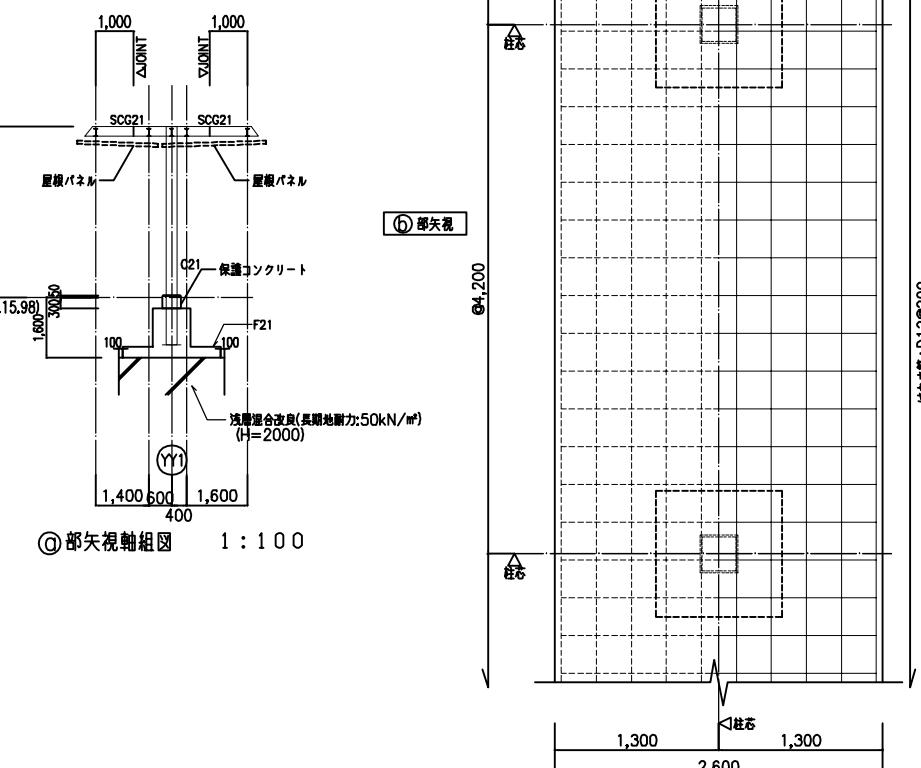
1. 鉄骨柱P1PL下端レベルは、設計GL-550とする
2. 基礎天端レベルは、設計GL-400とし、
保護コングリート天端レベルは、設計GL+750とする
3. 基礎底レベルは、設計GL-900とする
4. 浅層地盤改良(厚さ2.0m, ビメント添加量100kg/m³)
により、最大許容支承力は50kN/m²とする。
5. 支持層はローム層とする。

井原家蔵 広パネル梁伏図 1:100

共通事項
特記なき限り下記による。



YY1 通り軸組図 1:100



◎ 部矢視軸組圖 1:100

基礎梁断面リスト 1:30

符号	FG21
位置	全断面
断面	
上端筋	10-D25
下端筋	10-D25
スチーラップ	4-D16 @150
横筋	8-D32 (L2定番, L1重ね)
備考	

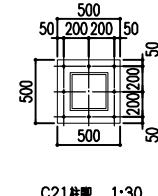
鉄骨部材リスト

共通事項： 鋼材：屋外に露出する部材は、溶融亜鉛めっきとする。
・ 鋼管全般に防錆漆を塗装する。

符 号	部 材		材質	備 考
C21	全断面		□-300x300x16	BCR295
SCG21	全断面		H-250x250x9x14	SS400 剛接合 フランジ: SPL1-9, SPL2-9 HTB 4x2-M20 ウェブ: 2SPL3-9, H.T.B 2x2-M20
sb20	全断面		H-200x100x5.5x8	SS400 GPL-9, H.T.B 1x2-M20

C21 鉄骨柱脚詳細図 1:30

柱脚保護コンクリート配筋詳細図 1:30



B.R -28x500x500(SN490B)
A.BOLT 8-M20(ABR400), L=400

母屋取付詳細図 1・30

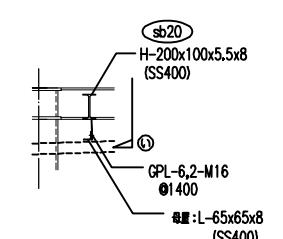
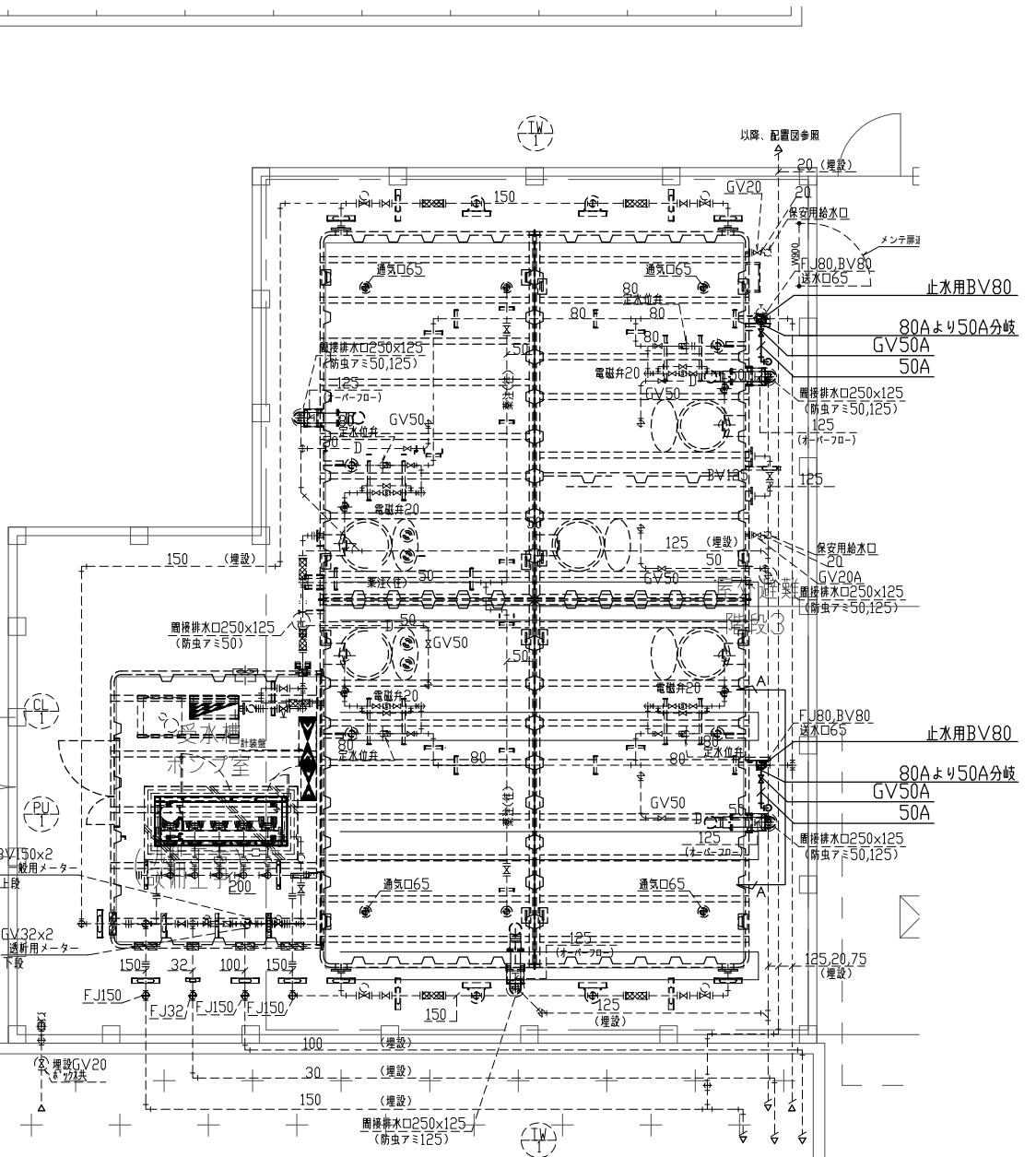


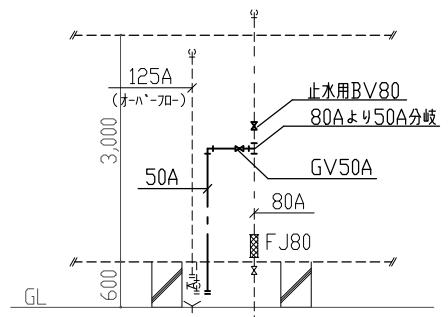
Diagram illustrating a structural connection. The top plate is labeled 'sb20'. A main girder is labeled 'H-200x100x5.5x8 (SS400)'. A side girder is labeled 'L-65x65x8 (SS400)'. A bottom plate is labeled 'GPL-6,2-M16 Ø1400'.



注記) 1. 破線は既設配管を示し、実線の配管部分が今回の改修範囲とする。
2. 給水配管の保溫材はボリスチレンフォームとし、ステンレスラッキング仕上げとする。
(既設配管部は取外しの上、復旧)

1階 受水槽廻り 詳細図

凡例		
シンボル	名 称	材 質
— — —	上水管（受水槽系統）	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VB）
▣ ◇	仕切弁（50A） バタフライ弁（80A）	青銅（給水用）、10K



A-A 断面図 S=1/50

注記
1、特記無き配管は、床下配管とする。